

2004年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

東洋1008

講義計画

東洋1008

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法論 (旧 日本語文法・文体論)		秋学期集中	4 単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] ここでは、ヒト脳の自然言語計算処理過程に関わる3つの特徴(音特徴、意味特徴、構造特徴)のうち、意味特徴と構造特徴に焦点をあてて議論する。日本語の母語話者の文法性反応を使用して思考実験を行う。ヒト脳という複雑系において出現した自然言語における構造とは何か?ヒトの幼児がどの言語でも努力なしに獲得できるのは何故か?一致現象は英語にはあるが、日本語にはないと言われるが、本当か?一致現象とは何か?日本語には主語はないと言われるが、本当か?主語とは何か?「は」と「が」の違いは何か?「昨日、御飯、食べた?」に対する否定の答えは「いや、食べなかった」だが、「もう御飯、食べた?」に対しては「いや、まだ食べなかった」は変だ。「まだ食べていない」である。何故か?「猫が金魚を食べた」と「金魚が猫に食べられた」は何がどう違うのか?「私は猫に金魚を食べられた」と何がどう違うのか?これらの文は、頭の中でどのように形成され、解釈されているのか?英語の疑問詞は文頭に動き(What did Mary buy?)、日本語では動かない(花子は何を買ったの?)と言われるが、本当か?自然が創造したヒト脳に関わる自然法則や計算処理のメカニズムを、日本語という自然言語の観察を通して吟味する。日本語学概論、英語統語論、言語習得論、数学、生物学、自然科学関連の講義も受講することが望ましい。</p>	<p>[講義計画] 日本語のきまりと仕組み 文の構成要素とその種類分け 「こと」の種類(述語の種類とその補語との結びつき) 「主語」「主格」「主題」 述語の活用 テンス・アスペクト 態(ヴォイス一格と動詞の形との相関) 心的態度(ムード)の表現</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献] 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味I』(くろしお出版) 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味II』(くろしお出版) 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味III』(くろしお出版)</p>			
<p>[教科書] 寺村秀夫『日本語の文法(上)』(国立国語研究所) 寺村秀夫『日本語の文法(下)』(国立国語研究所)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																
語彙・意味論		春学期	2 単位	藤 原 健																
<p>[講義概要・学習目標] ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。 この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 単語と語彙</td> <td>3. 語の種類</td> </tr> <tr> <td>1) 単語とは</td> <td>4. 語構成と造語法</td> </tr> <tr> <td>2) 語彙とは</td> <td>1) 語の構成成分</td> </tr> <tr> <td>3) 語形</td> <td>2) 造語法</td> </tr> <tr> <td>2. 語の数</td> <td>3) 造語に伴う音声変化</td> </tr> <tr> <td>1) 基礎語彙と基本語彙</td> <td>5. 語の意味</td> </tr> <tr> <td>2) 使用語彙と理解語彙</td> <td>6. 意味に関する問題点</td> </tr> <tr> <td>3) 語数とカバー率</td> <td>7. 語彙教育のポイント</td> </tr> </table>				1. 単語と語彙	3. 語の種類	1) 単語とは	4. 語構成と造語法	2) 語彙とは	1) 語の構成成分	3) 語形	2) 造語法	2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化	1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味	2) 使用語彙と理解語彙	6. 意味に関する問題点	3) 語数とカバー率	7. 語彙教育のポイント
1. 単語と語彙	3. 語の種類																			
1) 単語とは	4. 語構成と造語法																			
2) 語彙とは	1) 語の構成成分																			
3) 語形	2) 造語法																			
2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化																			
1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味																			
2) 使用語彙と理解語彙	6. 意味に関する問題点																			
3) 語数とカバー率	7. 語彙教育のポイント																			
<p>[成績評価の方法] 定期試験(半期科目であるので、前期1回)により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	<p>[参考文献] 浅野百合子(著)『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』 (国際交流基金/凡人社)</p>																			
<p>[教科書] 森田良行・村木新次郎・相沢正夫(編)『ケーススタディ・日本語の語彙』 (おうふう)</p>																				

国
際
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		秋学期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] 言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。 日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。 外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。		[講義計画] 1. 日本語の表記法と基準 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 1) 漢字（の成り立ち） （六書、部首、画数、字形等） 2) 仮名（の成り立ち） （真名、平仮名、片仮名等）		
[成績評価の方法] 定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。		[参考文献] 清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）		
[教科書] 富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金／凡人社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法 I		秋学期集中	4 単位	有川康二
[講義概要・学習目標] どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と、（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。 一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間の約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか？何故、自分は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。		[講義計画] 指示表現（こそあど） 形容詞 存在表現 時制（テンス） 保留形（テ形） 願望の助動詞ta/gar 可能の助動詞e/rare 様態・推量の助動詞soo/yooda/rasii テイル・テアル・テオク（窓が開いている・開けてある・窓を開けておく） 授受表現（やる・あげる・もらう） 態（受身・使役・使役受身） 条件表現（雨が降ったら・降るなら・降れば・降ると） 敬語（お読みになる・お読みする・なさる・いたす）		
[成績評価の方法] 出席・筆記試験		[参考文献] 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）		
[教科書] 東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ (旧日本語教授法Ⅱ(2))		通 期	4 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標] 日本語学習者の多様化に対応するために、さまざまな教授法が導入され、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では主要な教授法について考察し、具体的な教授項目を示しながら、それが教科書でどのように導入されるかを紹介します。さらには現在使用されている主要な教科書の特徴の分析をグループに分かれて行います。	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな外国語教授法と日本語教育 ・コースデザイン ・教室活動—初級の教え方（発音／会話、文字／読解） 中上級の教え方（会話／読解、読解／情報収集） ・教科書・教材の分析 			
[成績評価の方法] 春学期末と学年末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがったレポート作成、グループによる発表、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。	[参考文献] 『はじめての日本語教育1：日本語教育の基礎知識』（高見澤孟、アスク） 『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』（高見澤孟、アスク） 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（松岡弘監修、庵功雄他著、スリーエーネットワーク） 『中上級を教える人のための日本語ハンドブック』（白川博之監修、庵功雄他著、スリーエーネットワーク）			
[教科書] 『よくわかる教授法』（小林ミナ、アルク）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2単位	生瀬 克己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>20世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、20世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争がつくりだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何が見えてくるのか。それがこの講義のテーマである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人びとのなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要ときに適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	山 川 偉 也
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「世界市民」という言葉ははっきりとした歴史的刻印をもった言葉である。それは、紀元前4世紀末にシノベのデイオゲネスという男が最初に使った言葉「コスモポリターネス」に由来する。その言葉がどのような歴史的背景や状況のなかで使われるようになったのか、デイオゲネスという男の生き様の解明を通じて考える。そしてその射程は現代にまで及ぶ広大なものであることを知ることにしよう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>デイオゲネス・ラエルテイオスの『ギリシア哲学者列伝』（岩波文庫）に拠りながら、デイオゲネスに関するさまざまな逸話に含まれている「世界市民」主義的思想を読み解いていく。そのなかで、現代に生きるわたしたちが直面しているさまざまな問題を考えるべきヒントを探っていく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>受講態度、レポート、試験等の結果を元にして、総合的に判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>デイオゲネス・ラエルテイオス・加来彰俊訳『ギリシア哲学者列伝』（中巻）（岩波文庫）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>別になし。読書指導を行う。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		春学期	2単位	生瀬 克己
[講義概要・学習目標] 「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。		[講義計画] 障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害、知的障害、精神障害の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。 そこで、そうした複雑さをできるかぎり年頭におきつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえようようにしたい。		
[成績評価の方法] 出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切に評価したい。		[参考文献] 必要なときに適宜紹介します。		
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2単位	佐藤 啓子
[講義概要・学習目標] 家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、個人の過去。(たとえば胎児の「人権」)から高齢者にいたるまでの、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。 かなり深刻な問題から身近な問題まで、多様な家族の諸相を見た上で、人権問題を意識できる法的思考を身につけることを目標とする。		[講義計画] まず初回には、家族が現在意識するような形ではなかった時代を取り上げる。次回以降は、胎児になる段階から死にいたるまでのライフステージごとに人権問題として意識しうる状態を順に取り上げる。		
[成績評価の方法] 出席(必ず取るわけではない)とテスト この講義では黒板はほとんど使わない。その代わりに講義構成のメモを渡すので、しっかり話を聞き理解し考えてテストに望んでほしい。		[参考文献] 特になし		
[教科書] デイリー六法(三省堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2 単位	小早川 義 則
[講義概要・学習目標] <p>日米の政治的経済的かかわりは密接で刑事事件を主題とした映画等に接する機会も少なくないが、米国の裁判制度についての正確な知識は十分とは思われない。本講義では、陪審裁判の仕組みや有罪答弁（司法）取引等の意義を解説することによって米国の刑事裁判制度に関する知識を提供しつつ、人権保障との関わりやわが国での裁判員制度の導入の問題点についての理解を容易にしたいと考えている。なお、一方通行の講義ではなく、受講生諸君とのコミュニケーションを重視したいので、積極的な発言、質問を歓迎する。</p>	[講義計画] <p>まず日米裁判制度の共通点、相違点を簡単に説明したあと、陪審裁判に関する著名なアメリカ映画を視聴し、その感想文を提出させる。その後、写真入りの詳細なレジュメを用いて米国の裁判制度の仕組みにあわせてわが国の裁判制度にも言及しつつ、人権保障の意義について触れることとしたい。2年間の米国（ニューヨーク）留学の経験を生かして、同時多発テロの目標となった世界貿易センター周辺の地理的状況など、留学体験ならではの生の情報を提供しながら、無味乾燥な内容にならないように努力したい。</p>			
[成績評価の方法] <p>平常点および期末テスト（又はレポート）を総合して評価する。</p>	[参考文献] <p>小早川義則『NYロー・スクール見聞記(上下)』（2004年春刊予定）</p> <p>その他、適宜指示する。</p>			
[教科書] <p>小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（2004年春刊予定）</p> <p>藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選[第三版]』（別冊ジュリスト139号） （有斐閣、1996年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学		春学期集中	4 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] <p>日本の古典文学の代表とされる「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると、これは極めて異例である。</p> <p>では、なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。結論を先取りして言えば、当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての〈女〉に自らを位置付けて、文化的なアイデンティティ形成を行ったのである。</p> <p>また日本の文学史の中での平安文学の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」（ボブズボーム）なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを〈女〉のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。</p> <p>扱うテキストは、主に「日記文学」や「源氏物語」だが、必要に応じてその周辺のテキストにも言及していくつもりである。</p>	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 水村美苗著『私小説』と『本格小説』の日本の特質 2. 自己言及テキストとしての私小説と日記文学 3. 自己言及テキストとしての源氏物語 4. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想 5. 仮名文の無根拠性と文字の物神化 			
[成績評価の方法] <p>3度の教場試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。</p>	[参考文献] <p>ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』（新曜社・1999）</p>			
[教科書] <p>深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学	02	秋学期集中	4単位	生瀬 克己
[講義概要・学習目標] 歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史的場面における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらおう。	[講義計画] 具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。			
[成績評価の方法] 講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにした。	[参考文献] 必要なときに適宜紹介します。			
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		春学期集中	4単位	清 水 真 一
[講義概要・学習目標] “言語”はわれわれにとってあまりにも身近なものであるから、日頃それについて真剣に思いをめぐらすこともそうたびたびあるわけではないだろう。本講では、まず人間言語と他の“コミュニケーション手段”との比較をおこなうことから話しを始める。さらに科学としての言語学を隣接分野とのかかわりにおいて眺めると同時に、そのなかで“言語”をできうるかぎり明示的なかたちで把握すべく議論をすすめたい。そのため若干の数理的準備をすることになる。しかる後、人間言語についての“文法”に関する複数個の考え方を受講生諸君に提示し、われわれにとって身近な“言語”なるものに対する関心を惹起せしめることを目指す。“言語”についてのより真剣な思索への導入となれば幸いである。	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> ことばと他の“コミュニケーション”システムとの比較論的考察 言語学と隣接分野 若干の数理的準備 人間言語と、“文法”についてのいくつかの考え方 文法のサンプル 			
[成績評価の方法] 原則として、クイズ、定期試験に基づき総合的に評価する。	[参考文献] クラスにて適宜指示する。			
[教科書] プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想		春学期集中	4 単位	山川偉也
<p>[講義概要・学習目標] エレアのゼノンの運動逆理の探求を通じて、西洋思想をトラベルする。ゼノンの逆理が西洋思想に残した影響はきわめて深いものがある。時間や連続にかかわる思想の流れはその一端にすぎない。この講義は、ゼノンの逆理を中心テーマにしながら、古代ギリシアから現代にいたる西洋思想の根幹をなす自我・時間・連続・神などの概念をめぐる諸問題を闡明しようとするものである。</p>		<p>[講義計画] はじめに、古代ギリシア思想の概観を行い、その流れのなかにゼノンの逆理を位置づけする。そのうえでゼノンの逆理そのものの紹介を行い、次第にその背景にある諸問題へと入っていく。そしてそれらの諸問題が継承され展開されていった西洋思想史の流れの叙述へと入っていく。</p>		
<p>[成績評価の方法] 受講態度、出席率、小テスト、試験の結果などを元にして総合的に判定する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書] 山川偉也著『ゼノン、4つの逆理』講談社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学		秋学期集中	4 単位	牧 野 丹奈子
<p>[講義概要・学習目標] 本講義では、大学や社会で必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。文系のための大学数学入門というべき内容を目指したい。高等学校までに学んだ数学の内容が、人によって大分違っているようである。このことを考慮し、高等学校までの復習も行う。講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。</p>		<p>[講義計画] 以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じて調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校までの数学の復習 2. 集合 3. 論理 4. N進数 5. グラフと方程式 6. 場合の数 7. 確率 8. その他 		
<p>[成績評価の方法] 試験および出席などの総合評価</p>		<p>[参考文献] 適宜指示する</p>		
<p>[教科書] なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義		秋学期集中	4単位	高橋ひとみ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会において重要な生活文化として取り入れられている「体育・スポーツ」の歴史を、古代エジプト・ギリシャ・ローマまで遡り、政治や経済、社会環境との関連から学習する。</p> <p>「体育・スポーツ」の歴史を知ることが、「体育・スポーツ」の現在をより理解することにつながり、過去・現在を理解することは、今後の「体育・スポーツ」の進むべき道の教示となると考える。</p> <p>激動する現代社会の中で、「体育・スポーツ」のあり方を(自己の中で)確立していくことを目的とし、その目的達成のために本授業において学んだことを役立ててほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代の体育・スポーツ <ol style="list-style-type: none"> ①エジプト ②ギリシャ ③ローマ 2. 中世の体育・スポーツ 3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ 4. 近代の体育・スポーツ <ol style="list-style-type: none"> ①ドイツ ②イギリス ③スウェーデン ④フランス ⑤アメリカ ⑥日本 5. 現代の体育・スポーツ 6. オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピックス 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>高橋ひとみ(編著) 「体育・スポーツ史」 西日本法規出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義		春学期集中	4単位	高橋ひとみ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達には人々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。</p> <p>激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。</p> <p>健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」「休養」「栄養」であるが、本講義においては、生涯を通じての「運動」について、特に留意して学習する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念 2. 健康な生活と環境 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 体育とスポーツおよびレクリエーション 6. 心身の発達と体育 7. 遊びと生活 8. 家庭体育 9. 学校体育 10. 社会体育 <ol style="list-style-type: none"> 11. 青年期・壮年期の体育 12. 社会の変化と健康生活 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「健康科学概論」 緒方正名編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法入門		春学期	2単位	前田徹生
<p>[講義概要・学習目標] 憲法入門は、憲法学の学習を容易するため、「具体から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることが企図されている。初年度における法学学習の体系的理解を促すため、毎回出席をとる。</p>	<p>[講義計画] 1) 憲法ガイダンス 2) 「三菱樹脂事件」「エホバの証人輸血拒否事件」 3) 「尊属殺重罰規定違憲判決」「非嫡出子の法定相続差別事件」 4) 「麹町中学内申書事件」「津地鎮祭訴訟」「愛媛玉串料訴訟」 5) 「チャトレイ事件」「北方ジャーナル事件」「徳島市公安条例事件」 6) 「小売市場事件」「薬事法違憲判決」「森林法共有林事件」 7) 「朝日訴訟」「堀木訴訟」「旭川学テ事件」 8) 「全通中郵事件」「東京都教祖事件」「全農林警職法事件」 9) 「砂川事件」「恵庭事件」「長沼事件」 10) 「警察予備隊違憲訴訟」「板まんだら事件」 11) 「砂川事件」「苫米地事件」「警察法改正無効事件」</p>			
<p>[成績評価の方法] 2/3以上の出席を単位認定の基本条件とする。 定期試験と時々的小テストの結果を総合して成績評価の判断をおこなう。</p>	<p>[参考文献] 芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店 樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社 棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿』有斐閣</p>			
<p>[教科書] 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ〔第4版〕』有斐閣 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ〔第4版〕』有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法入門		春学期	2単位	佐藤 啓子
<p>[講義概要・学習目標] 事例を中心に、民法の基本原則と構造を学ぶ。 条文の読み方をはじめとする基礎知識と、要件・効果・趣旨を中心とする初歩的解釈手順を「知ること」と「見につける」ことで、以降の法律学学習につなげたい。</p>	<p>[講義計画] 事例は教科書から採ることもあるしこちらで作成することもある。 大まかに言えば、法律学の体系、総則、債権各論、物権、債権総論、物権、親族法、相続法の順で講義する予定である(変更の可能性あり)。</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験、小試験および出席とその態度による。</p>	<p>[参考文献] 田沼柁ほか『現代民法入門（新訂版第二刷）』（一橋出版)</p>			
<p>[教科書] 野村豊弘『民法入門（第二版補訂版）』（有斐閣) 講義のときには、六法を必ず持参すること</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑法入門		春学期	2 単位	小早川 義 則
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
法学基幹科目の履修は「具体から抽象へ」「素材(基本事例)の習得から理論的検討へ」という段階的学習が肝要であり、一年次開講の入門科目は、基本判例の徹底的習得が課題となる。本入門では、刑法学での基本概念の理解に不可欠な興味深い生の素材を紹介することにより、「罪と罰」の深淵を垣間見せつつ、「生きた法」の現実を体得させたい。刑法学への知的関心とともに法律学への学習意欲の高まりが期待されることになり、二年次以降の本格的な学習への円滑な導入の役割を果たしたいと考えている。	講義にあわせて生の刑事裁判の傍聴を指示し、そのレポートの提出を義務付けながら、刑法学特有の世界へのスムーズな導入を図りたい。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
平常点および期末試験を総合して評価する。	その都度、指示する。			
[教科書]				
渡辺修『刑事法入門——刑事裁判の風景——』（新世社、2000年）、 中山研一『刑法入門（第2版）』（成文堂、2000年）				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
法職オリエンテーション		秋学期	2 単位	前田徹生
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
法学部の学生諸君は、将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進む方が多いと思います。法職オリエンテーションは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、地方公共団体の長、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいとしています。	1) ガイドンス 2) ゲスト講師との交渉の結果、講義開始時点で、一覧表を配布する。 参考のため、昨年度の主な講師一覧を紹介する。 宮武嶺氏（LEC東京リーガルマインド講師・弁護士） テーマ：「ロー・スクールと新司法試験」 新垣たずさ氏（総務省・本学卒業生） テーマ：「公的仕事の多様性」 佐野 正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官） テーマ：「裁判官の生活」「弁護士の仕事」 辰野 勇氏（株）モンベル代表取締役社長・冒険家） テーマ：「遊ビジネス——冒険と夢を語る」「グローバル・マーケットへの挑戦——カリフォルニア連邦地裁陪審裁判を経験して——」 児玉範徳氏（ジャパンフーズ（株）常勤監査役、伊藤忠商事（株）中国室長） テーマ：「世界と中国のコラボレートガバナンス」 久米川良子氏（久米川法律事務所・弁護士） テーマ：「消費者契約について」 長尾一孝氏（大阪府警警務部警務課） テーマ：「警察官の職務」 稲田順三氏（和泉市市長） テーマ：「和泉市のまちづくり」 藤村輝子氏（藤村法律事務所弁護士・元検察官） テーマ：「検事、その多彩な職域と職務——格好よくするのは楽じゃない——」			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。 時々課すレポート等を総合して成績評価の判断をおこなう。	その都度紹介する。			
[教科書]				
なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	01	通 期	4 単位	軽 部 恵 子
[演習概要・学習目標] 人間の知的活動は「聞く、話す、読む、書く」の4つに集約できます。この演習では、相手の話を正確に理解し、説得力ある意見を述べ、資料を多角的に分析し、理路整然と書くという、大学でのあらゆる勉強に必要な技術を学びます。 受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心・探求心を持つことが求められます。各自が主要新聞（朝日、読売、毎日、日経）を少なくとも1紙は購読し、テレビのニュース番組を毎日見て下さい。演習の詳細は受講生のニーズや要望に基づき決定しますが、原則として右欄の項目を扱います。	[演習計画] 1. 聞く：ノートの取り方 2. 話す：発表、スピーチ、討論、ディベート 3. 読む：要旨の把握、資料の整理、資料の多角的な分析 4. リサーチ：テーマ選定、図書館の使い方、ホームページ実習、インターネット使用上の注意、適切な資料収集 5. 書く：テーマ選定、参考文献の収集と読み込み、アウトラインの作成、アカデミックな表現、適切な引用と出典 6. 個人発表 7. グループ・プロジェクト ※ 演習の素材には、受講生が親しみやすい身近なテーマやタイムリーなトピックを取り上げます。			
[成績評価の方法] 出席、授業参加態度（発言、質問など）、課題（内容・期限の遵守）、各種発表を総合的に評価する。なお、度重なる遅刻や欠席、提出物の遅延・未提出など、受講生としてふさわしくない者は、直ちに除籍処分の対象となる。	[参考文献] ※その他の文献は随時指示する。 ・猪口孝 『社会科学入門』 中央公論社 1985年 ・佐藤義彦他 『サイエンス・オブ・ロー事始め』 有斐閣 1998年 ・久保田裕、佐藤英雄 『知っておきたい情報モラルQ&A』 岩波書店 2002年 ・谷岡一郎 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋社 2000年 ・W. ユーリー 『決定版ハーバード流"NO"と言わせない交渉術』 三笠書房 1995年 ・荻谷剛彦 『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』 講談社 2002年			
[教科書] <生協にて一括購入> ・鷺田小彌太 『入門論文の書き方』 PHP研究所 1999年 ・木幡健一 『「プレゼンテーション」に強くなる本』 PHP研究所 2002年 ・北村肇 『新聞記事が「わかる」技術』 講談社 2003年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	02	通 期	4 単位	清 原 泰 司
[演習概要・学習目標] この基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイドである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートのとりかた、パソコンを利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、文献収集の方法、討論、レポート（報告書）の書き方、報告の実践や文献講読を行う。また、事情が許せば、裁判所や法律事務所、裁判事件の場所等の見学を行う。それにより、学習のための基本技術の修得および動機付けの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係の形成を助け、大学生活をスムーズにするためのサポートを行う。	[演習計画] 教科書を講読し、基本的人権と憲法や民法との関わりについて考える。具体的には報告者を決め、報告者は、担当部分をレポートにまとめて報告する。その報告について全員で討論する。教科書に引用されている文献や判例についても同様の方法で報告・討論する。これらの作業を通して、文献や判例の読み方・分析の仕方を学ぶ。また、適宜、法律に関係する新聞記事についても議論し、社会と法の関わりについて考える。			
[成績評価の方法] 演習への参加態度（出席・発言・報告・報告書の内容など）を総合的に評価する。	[参考文献] 適宜、指示する。			
[教科書] 棟居快行・赤坂正浩・松井茂記ほか著『基本的人権の事件簿[第2版]』（有斐閣選書） 『平成16年版（2004年）六法』（有斐閣）（岩波書店）（三省堂）など、いずれの出版社のものでもよい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	03	通 期	4 単位	小早川 義 則
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>基礎演習は、高校までの学習とは異なる大学教育への適応を容易にするための小人数編成によるアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、文献・資料等の検索方法、論文の書き方等の指導を中心とする。本演習は法学部の基礎演習であるため、できれば裁判所や事務所の見学も実現したい。また食事会等を通じてのゼミ生相互の親睦を図るとともに、大学生活を円滑にするための側面的支援も行う予定である。</p>	<p>まず法学部志望の動機および本大学選択の理由等についての自己紹介のあと、それを文章化して提出させて講評する。その後、内外の諸事件に関するマスコミ報道——主に新聞記事——を素材にその内容を報告検討することによって徐々に社会科学ないし法律学への関心を高めるとともに、判例など第一次資料の重要性を自覚させる。また希望があれば、ゼミ旅行なども実現したい。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席状況など平常点を総合して評価する。</p>	<p>適宜指示する。</p>			
[教科書]				
<p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	04	通 期	4単位	佐藤啓子
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とする。それにより、学習のための基本技術の習得およびモチベーションの向上を図る。また、小人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。</p>	<p>前期…ノートの取り方、図書館の使い方、教科書の読み方、報告書の書き方、情報機器の利用法など 後期…ディベート、ゼミレポートの書き方など</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席とその態度、提出物で決定する</p>				
[教科書]				
<p>弥永真生・有斐閣『法律学習マニュアル』 六法</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	05	通 期	4 単位	鈴木博信
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>レポート作成、図書館の利用法、文献の調べ方、 及び基本的な学習のノウハウを紹介する。 そのあとは、テキストや新聞をもとにして、参加者 各自の負担による報告をしてもらい、それらと 討議をおこなう予定である。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概要にふれたように、レポート作成にはいる 基本的なガイダンスをふりまわす。 送られたテキストをもとにして、参加者の「報告」をつまみ重たしていく。 ・ 報告—質疑—応答、という形で進行する。 ・ 報告者には、担当の報告についてレジュメを事前に 用意してもらい、参加者へこれを配布することを 義務づける。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、レポート、報告などをもとにして評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時指定します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>この方法は必修された。 1. テキストは、前講後に解説のテキストで、各自に 購入してもらう。2〜3冊に限定する。 2. 新聞を最低1紙購読のこと(随時、使用する)。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	06	通 期	4 単位	瀬谷ゆり子
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>大学では、自らの主体的な学修が望まれる。教えられたことを 正確に理解するだけではなく、自ら調査・整理し、それを口頭お よび文書の形で発表することが求められる。 法学の基礎的な部分に触れることで、これからどのようなこ とを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるかを感じて もらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるよ うに考えている。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>春学期 図書館・情報センター等を利用した文献・資料収集方法のガイ ダンス後に、まず各人が関心を持ったテーマについて、以下のよ うな手順でレポート作成まで行うことにする。 1. 問題の設定 2. 資料の収集 3. レジュメ(報告原稿)の作成、報告 4. 質問への対応、討論 5. レポート作成</p> <p>秋学期 特定のテキストを使用し、テーマに沿って議論する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・議論への参加状況・レポート等を総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>六法を用意すること。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>春学期は特に使用しない。 秋学期については、受講者の希望を聞いて決定する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
基礎演習	07	通 期	4単位	瀧澤 仁 唱
[演習概要・学習目標] 基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とし、さらに、事情が許せば、模擬裁判、裁判所・刑務所の見学、情報公開法(条例)利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモチベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。	[演習計画] 憲法、民法、刑法および社会福祉法を中心に行うが、詳細は演習受講者の問題関心をもとに行う。今まで行ってきたものは、以下のとおり(順不同)である。学生の希望によりテーマを選ぶことにする。 1. 男女平等と法 2. 結婚と法 3. 環境と法 4. 労働と法 5. 社会保障と法 6. 介護と法 7. 年金と法 8. 人権と法 9. セクシュアル・ハラスメント 10. 自衛隊 11. P L法 12. 離婚と法			
[成績評価の方法] 出席、演習での役割およびレポートによる総合評価	[参考文献] 必要に応じ指示します。 なお、『六法』は法学部生の常識として必ず持ってきて下さい。			
[教科書] 必要に応じ指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	08	通 期	4単位	寺田友子
[演習概要・学習目標] 法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる。 春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方・読み方、文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等、法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。あわせて、受講生の体験等に基づいて、道路交通法に基づく運転手の安全確保手段等についても理解を深めたい。 尚、質問等を気軽に行い得るためには、演習生相互の親睦が欠かせないものと考えから、早い時期にコンパ等も行いたい。 秋学期は、各自、判例を1つ選択し、レジュメを作り、報告する。他の演習生はその報告に質問等を行い、その報告について、レポートを毎時間提出する。そのことにより、人の報告を聞いて、ノートを取る能力等を養いたい。このレポートについては、毎回添削して返却したい。 最終的には、自己の報告した判例について、最終レポートを提出する。	[演習計画] 春学期 1 ガイダンス 2 自己紹介 3 コンパ 4 最高裁判所の交通事故判決の輪読 5 後期に各自が報告する判決の選択 秋学期 6 各自選択した判決の報告 7 最終レポートの提出			
[成績評価の方法] 正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。 授業時間中における質問、自己の報告、授業に対する積極性、毎回のレポート、最終レポート等を総合的に勘案して評価する。	[参考文献] 適宜指示する。			
[教科書] 別冊ジュリスト『交通事故判例百選(最新版)』(有斐閣) ポケット六法[平成16年版](有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	09	通 期	4 単位	本 間 法 之
[演習概要・学習目標]	<p>基礎演習は、充実した法学部生活を送るためのアカデミック・ガイダンスです。法学部での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るために、講義の受け方、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベートの技法、レポートや論文の書き方、研究報告の仕方等についての基礎的な指導を行います。また、事情が許せば、裁判所の見学などによる実践的学習等の体験も積んでもらおうと思います。さらに、学生諸君相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援をすると共に、学生生活や将来の進路等に関する相談・助言も行いたいと思っています。</p>			
[成績評価の方法]	<p>平素の勉学状況（出席・課題等の達成度・受講態度）をもとに成績の評価をします。</p>			
[教科書]	<p>西野喜…「法律文献学入門」（成文堂） ¥1,800- 最新年度版の「六法」を常に携帯すること。「六法」の購入については、最初の講義の際に詳しく説明します。</p>			
	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 法学部初年度生への助言 ② 法律学習へのアプローチ ③ 初学者のための法律文献案内 ④ 「六法」の常識 ⑤ 法律用語の常識 ⑥ 法律解釈の常識 ⑦ 判例学習の常識 ⑧ 国家試験と法律の学習 ⑨ 法律答案・レポートの書き方 ⑩ 研究報告の仕方 <p>その他</p>			
	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際に、適宜紹介します。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	10	通 期	4 単位	松村昌廣
[演習概要・学習目標]	<p>この演習は学生に自己啓発的な学習意欲を持たせ、学問的な方向付けをすることを目的とする。このため主として古典書を読ませながら、「人間生活と社会」について考察させ、現代社会の諸問題を初歩的に研究させる。</p> <p>1 導入 1) 大学の意義と大学生活の仕方について 2) 法学専攻の意義と当基礎演習の目的及び進め方について 3) 成績の評価方法（出席・報告討論・レポート）</p> <p>2 課題問題 1) 人間とは何か（人間観） 2) 人間社会とはどんな仕組みになっているのか（社会観） 3) 政治とはなにか（政治観） 4) 学問とは何をどうすることなのか（学問観）</p>			
[成績評価の方法]	<p>1 出席 40% 2 レポート 60%（4点 X 15回） 評価の目安 80～100% A 70～79% B 60～69% C</p>			
[教科書]	<p>各自、「講義計画」で指定してある書籍を準備しなさい。古典作品は様々な出版社から発売されている。内容を確認したうえで、指定の出版社以外のものでも何ら問題はありませぬ。</p>			
	<p>[演習計画]</p> <p>3 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カール・セーガン「コスモス」（朝日書店） 2) 時実利彦「心と脳の仕組み」（講談社学術文庫） 3) シューマン「国際政治（上巻）」（東大出版会） 4) プラトン「国家」（岩波文庫） 5) アリストテレス「ニコマコス倫理学」（岩波文庫） 6) 「孔子・孟子」の孔子の部分（中央公論社「世界の名著」） 7) 同書、孟子の部分 8) 「老子・荘子」の老子の部分（同上） 9) 同書、荘子の部分 10) ホブス「リバイアサン」（同上） 11) ルソー「社会契約論」（岩波文庫） 12) トゥクビル「アメリカの民主主義」（「世界の名著」） 13) 「ベンサム・ミル」のベンサムの部分（同上） 14) 同書、ミルの部分 15) マルクス・エンゲルス「ドイツ・イデオロギー」（岩波文庫） 			
	<p>[参考文献]</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	11	通 期	4 単位	吉 見 研 次
[演習概要・学習目標] この演習では下記テキストを使用し、内容的には日常の市民生活に関係の深い法律知識の基礎を学習する。いくつかの判例を素材にしたグループ学習も試みる予定である。 とところで、法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進めるさいの文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術を体得してもらつつもりである。学内の図書館の見学を授業の一環として実施するほか、学内外の諸施設の見学利用等も考えたい。なお、受講学生の履修計画をはじめ学習全般に対する指導助言も積極的にやりたい。	[演習計画] 春学期は毎回、主に数名の学生がテキストの内容を順次紹介報告する形式で授業を運営していくが、図書館等の見学に時間を割くこともある。別に討論の時間等も設けたいと考えている。小論文の書き方を指導した上で、実際に書く作業を課すこともある。 夏休み中および秋以降の課題として、文献・資料を読んだ上でレポートを書いてもらう予定である（レポートのテーマは各自の選択に委ねるつもりだが、大枠は指定するかもしれない）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭で発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらふことになる。			
[成績評価の方法] 出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。	[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 池田真朗他『法の世界へ（第3版）』（有斐閣）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	12	通期	4単位	林 錫璋
[演習概要・学習目標] 大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料などの検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、文献講読などを中心とした実践的学習を行う。	[演習計画] 左記目標を達成するため、以下項目の判例を題材にしてゼミを行います。 1 宇奈月温泉事件 2 信義誠実の原則 3 意思能力なき者の行為 4 権利能力なき社団の成立要件 5 ホステスの保証 6 動機の錯誤 7 詐欺による善意の第三者と登記 8 強迫による意思表示 9 民法94条2項の類推適用 10 表見代理 11 他人の権利の処分と追認 12 消滅時効			
[成績評価の方法] 報告・討論、レポート、出席状況などをもって総合評価する。	[参考文献] 甲斐道太郎編『新現代民法入門』（法律文化社）			
[教科書] 星野英一他編・別冊ジュリスト『判例百選Ⅰ』第5版（有斐閣） 判例六法（三省堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																								
憲法Ⅰ		秋学期集中	4単位	前田徹生																								
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の2分野で構成されている。憲法Ⅰは、とりわけ「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、国家試験の受講者にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。</p> <p>初年度の法学部の基本科目であり、法学学習の体系的理解を保障する意味もあり、講義においては、座席は指定され、出席は、毎回とる。ここで、脱落することのないように、1年生諸君の頑張りを期待したい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <table border="0"> <tr> <td>1) 日本国憲法成立史</td> <td>13) 表現の自由</td> </tr> <tr> <td>2) 基本的人権の享有主体</td> <td>14) 集会・結社の自由</td> </tr> <tr> <td>3) 基本的人権の私人間効力</td> <td>15) 被疑者・被告人の権利</td> </tr> <tr> <td>4) 特別な法律関係における人権</td> <td>16) 職業選択の自由</td> </tr> <tr> <td>5) 基本的人権と公共の福祉</td> <td>17) 財産権の保障</td> </tr> <tr> <td>6) 法の下での平等</td> <td>18) 生存権</td> </tr> <tr> <td>7) 個人の尊重と幸福追求権</td> <td>19) 教育を受ける権利</td> </tr> <tr> <td>8) プライバシーの権利</td> <td>20) 労働基本権</td> </tr> <tr> <td>9) 自己決定権</td> <td>21) 国務請求権</td> </tr> <tr> <td>10) 思想・良心の自由</td> <td>22) 参政権</td> </tr> <tr> <td>11) 信教の自由・政教分離の原則</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12) 学問の自由</td> <td></td> </tr> </table>				1) 日本国憲法成立史	13) 表現の自由	2) 基本的人権の享有主体	14) 集会・結社の自由	3) 基本的人権の私人間効力	15) 被疑者・被告人の権利	4) 特別な法律関係における人権	16) 職業選択の自由	5) 基本的人権と公共の福祉	17) 財産権の保障	6) 法の下での平等	18) 生存権	7) 個人の尊重と幸福追求権	19) 教育を受ける権利	8) プライバシーの権利	20) 労働基本権	9) 自己決定権	21) 国務請求権	10) 思想・良心の自由	22) 参政権	11) 信教の自由・政教分離の原則		12) 学問の自由	
1) 日本国憲法成立史	13) 表現の自由																											
2) 基本的人権の享有主体	14) 集会・結社の自由																											
3) 基本的人権の私人間効力	15) 被疑者・被告人の権利																											
4) 特別な法律関係における人権	16) 職業選択の自由																											
5) 基本的人権と公共の福祉	17) 財産権の保障																											
6) 法の下での平等	18) 生存権																											
7) 個人の尊重と幸福追求権	19) 教育を受ける権利																											
8) プライバシーの権利	20) 労働基本権																											
9) 自己決定権	21) 国務請求権																											
10) 思想・良心の自由	22) 参政権																											
11) 信教の自由・政教分離の原則																												
12) 学問の自由																												
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。加えて、時々に行う小テストおよび定期試験を総合して判断する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房 樋口陽一『憲法』（改訂版）創文社 佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院 野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』（第三版）有斐閣 粕谷友介・向井久了編『青林法学双書 憲法』（第二版）青林書院</p>																											
<p>〔教科書〕</p> <p>芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第三版）』岩波書店</p>																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																				
憲法Ⅱ		春学期集中	4単位	松田聡子																				
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Ⅰですでに学んでいる。憲法Ⅱでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈の習得を目標とする。できるだけ具体的な事件や判例を通して体系的な理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較憲法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく予定である。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 憲法と立憲主義</td> <td>2. 法の支配と法治主義</td> </tr> <tr> <td>3. 国民主権?国民主権と人民主権</td> <td>4. 国民主権?選挙制度</td> </tr> <tr> <td>5. 国民主権?国民投票制度</td> <td>6. 国民主権?天皇制</td> </tr> <tr> <td>7. 権力分立?国会の地位と権能</td> <td>8. 権力分立?議院内閣制</td> </tr> <tr> <td>9. 権力分立?解散制度</td> <td>10. 権力分立?司法権の意味と範囲</td> </tr> <tr> <td>11. 権力分立?司法権の限界</td> <td>12. 権力分立?違憲立法審査制の性格</td> </tr> <tr> <td>13. 権力分立?違憲立法審査制の限界</td> <td>14. 権力分立?司法制度の課題</td> </tr> <tr> <td>15. 地方自治制度</td> <td>16. 財政制度</td> </tr> <tr> <td>17. 憲法保障</td> <td>18. 平和主義</td> </tr> <tr> <td>19. 戦後改憲論の系譜</td> <td></td> </tr> </table>				1. 憲法と立憲主義	2. 法の支配と法治主義	3. 国民主権?国民主権と人民主権	4. 国民主権?選挙制度	5. 国民主権?国民投票制度	6. 国民主権?天皇制	7. 権力分立?国会の地位と権能	8. 権力分立?議院内閣制	9. 権力分立?解散制度	10. 権力分立?司法権の意味と範囲	11. 権力分立?司法権の限界	12. 権力分立?違憲立法審査制の性格	13. 権力分立?違憲立法審査制の限界	14. 権力分立?司法制度の課題	15. 地方自治制度	16. 財政制度	17. 憲法保障	18. 平和主義	19. 戦後改憲論の系譜	
1. 憲法と立憲主義	2. 法の支配と法治主義																							
3. 国民主権?国民主権と人民主権	4. 国民主権?選挙制度																							
5. 国民主権?国民投票制度	6. 国民主権?天皇制																							
7. 権力分立?国会の地位と権能	8. 権力分立?議院内閣制																							
9. 権力分立?解散制度	10. 権力分立?司法権の意味と範囲																							
11. 権力分立?司法権の限界	12. 権力分立?違憲立法審査制の性格																							
13. 権力分立?違憲立法審査制の限界	14. 権力分立?司法制度の課題																							
15. 地方自治制度	16. 財政制度																							
17. 憲法保障	18. 平和主義																							
19. 戦後改憲論の系譜																								
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末に行う論述試験で判断</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>佐藤幸治『憲法』青林書院 佐藤功『日本国憲法概説』 松井茂樹『日本国憲法』</p>																							
<p>〔教科書〕</p> <p>芦部信喜『憲法 第三版』岩波書店</p>																								

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者																						
民法 I		秋学期集中	4 単位	林 錫璋																						
<p>[講義概要・学習目標] 民法の全体像を俯瞰した上、民法の意義および民法の指導原理に移り、民法の第一編の総則として、権利の主体（自然人、法人）、権利の変動原因（法律行為、時効）などの規則について、通説・判例の立場から、その基本構造と各種の法的概念及び制度を論述し、実務・理論・立法の動向にも触れ、これを解説し、民法の基本理念及び共通原則、所定の諸制度に対する正確な理解を期するとともに、これをもって民法全体の学習へ導入する。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 民法の位置づけ</td> <td>2 民法の法源</td> </tr> <tr> <td>3 民法の基本原則とその修正</td> <td>4 民法の適用のしくみと解釈</td> </tr> <tr> <td>5 権利能力と行為能力</td> <td>6 成年後見制度</td> </tr> <tr> <td>7 団体と法人格</td> <td>8 法人の設立と解散</td> </tr> <tr> <td>9 権利の客体</td> <td>10 法律行為の解釈</td> </tr> <tr> <td>11 法律行為の有効要件</td> <td>12 意思の欠・と意思の瑕疵</td> </tr> <tr> <td>13 心裡留保と虚偽表示</td> <td>14 錯誤</td> </tr> <tr> <td>15 詐欺と強迫</td> <td>16 代理の仕組みと働き</td> </tr> <tr> <td>17 本人と代理人の関係</td> <td>18 代理人と相手方との関係</td> </tr> <tr> <td>19 表見代理</td> <td>20 無効と取消</td> </tr> <tr> <td>21 条件と期限</td> <td>22 時効制度</td> </tr> </table>			1 民法の位置づけ	2 民法の法源	3 民法の基本原則とその修正	4 民法の適用のしくみと解釈	5 権利能力と行為能力	6 成年後見制度	7 団体と法人格	8 法人の設立と解散	9 権利の客体	10 法律行為の解釈	11 法律行為の有効要件	12 意思の欠・と意思の瑕疵	13 心裡留保と虚偽表示	14 錯誤	15 詐欺と強迫	16 代理の仕組みと働き	17 本人と代理人の関係	18 代理人と相手方との関係	19 表見代理	20 無効と取消	21 条件と期限	22 時効制度	
1 民法の位置づけ	2 民法の法源																									
3 民法の基本原則とその修正	4 民法の適用のしくみと解釈																									
5 権利能力と行為能力	6 成年後見制度																									
7 団体と法人格	8 法人の設立と解散																									
9 権利の客体	10 法律行為の解釈																									
11 法律行為の有効要件	12 意思の欠・と意思の瑕疵																									
13 心裡留保と虚偽表示	14 錯誤																									
15 詐欺と強迫	16 代理の仕組みと働き																									
17 本人と代理人の関係	18 代理人と相手方との関係																									
19 表見代理	20 無効と取消																									
21 条件と期限	22 時効制度																									
<p>[成績評価の方法] 出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価</p>	<p>[参考文献] 甲斐道太郎編『新現代民法入門』（法律文化社）</p>																									
<p>[教科書] 安井宏ほか著『プリメール民法Ⅰ 民法入門・総則』（法律文化社） コンサイス判例六法（三省堂）</p>																										

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者																								
民法Ⅱ		春学期集中	4 単位	林 錫璋																								
<p>[講義概要・学習目標] 物権法は、財産の利用に関する生活関係を規律する法であり、民法第2編がこれを定めている。物権とは何か、から始め、物件全体に通じる考え方について講義する。物権変動は、物権法の中で最も重要な問題であり、物権変動の法律過程を法的に分析し、物権総論の理解を深める。さらに、この頃、めまぐるしく判例が変更され、学説も新しい展開がみられる抵当権を中心とする担保物権（法定担保、約定担保、非典型的担保）などについても、学説・判例を分析し、諸制度に対する正確な理解を高める。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 物権法の基礎知識</td> <td>2 物権の効力</td> </tr> <tr> <td>3 公示の原則と公信の原則</td> <td>4 意思表示による物権変動</td> </tr> <tr> <td>5 不動産の二重譲渡</td> <td>6 法律行為と登記</td> </tr> <tr> <td>7 民法177条の「第三者」の範囲</td> <td>8 動産に関する物権変動</td> </tr> <tr> <td>9 所有権の意義と内容</td> <td>10 相隣関係</td> </tr> <tr> <td>11 共有</td> <td>12 建物の区分所有</td> </tr> <tr> <td>13 用益物権</td> <td>14 占有権</td> </tr> <tr> <td>15 抵当権の設定</td> <td>16 抵当権の効力</td> </tr> <tr> <td>17 抵当権の物上代位</td> <td>18 共同抵当</td> </tr> <tr> <td>19 抵当権の処分</td> <td>20 抵当権と利用権の関係</td> </tr> <tr> <td>21 根抵当</td> <td>22 質権</td> </tr> <tr> <td>23 法定担保物権</td> <td>24 非典型的担保</td> </tr> </table>			1 物権法の基礎知識	2 物権の効力	3 公示の原則と公信の原則	4 意思表示による物権変動	5 不動産の二重譲渡	6 法律行為と登記	7 民法177条の「第三者」の範囲	8 動産に関する物権変動	9 所有権の意義と内容	10 相隣関係	11 共有	12 建物の区分所有	13 用益物権	14 占有権	15 抵当権の設定	16 抵当権の効力	17 抵当権の物上代位	18 共同抵当	19 抵当権の処分	20 抵当権と利用権の関係	21 根抵当	22 質権	23 法定担保物権	24 非典型的担保	
1 物権法の基礎知識	2 物権の効力																											
3 公示の原則と公信の原則	4 意思表示による物権変動																											
5 不動産の二重譲渡	6 法律行為と登記																											
7 民法177条の「第三者」の範囲	8 動産に関する物権変動																											
9 所有権の意義と内容	10 相隣関係																											
11 共有	12 建物の区分所有																											
13 用益物権	14 占有権																											
15 抵当権の設定	16 抵当権の効力																											
17 抵当権の物上代位	18 共同抵当																											
19 抵当権の処分	20 抵当権と利用権の関係																											
21 根抵当	22 質権																											
23 法定担保物権	24 非典型的担保																											
<p>[成績評価の方法] 出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価</p>	<p>[参考文献] 甲斐道太郎・石田喜久夫編 『新民法教室Ⅰ（第2版）総則・物権』（法律文化社）</p>																											
<p>[教科書] 松井宏興他著『プリメール民法Ⅱ 物権・担保物権法』（法律文化社） 判例六法（三省堂）</p>																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法Ⅲ		春学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] この科目は、民法典の第3編「債権」の「総論」を対象とする。その内容は、債権とは何か(債権の意義)、債権の目的、債権の効力、責任財産の保全、多数当事者の債権関係、債権の移転(譲渡)および債権の消滅である。 講義では、最初に「債権」と「物権」の相違について説明する。債権とは、どのような権利であるかを理解するためには、民法典が定めるもう一つの私権である「物権」との相違を理解しておくことが必要不可欠だからである。そのうえで、債権総論における各種の法制度が、実際にどのように機能し、どのような法的問題があるかについて、学説・判例の検討を通して理解する。	[講義計画] 下記のテーマの中の重要論点について、具体的事例を交えながら講義する。 1 債権とは？— 物権との相違 2 債権の目的 3 債権の効力—強制履行・債務不履行 4 責任財産の保全—債権者代位権・債権者取消権 5 多数当事者の債権関係—分割債務・不可分債務・連帯債務・不真正連帯債務・保証債務 6 債権の移転—債権譲渡・債務引受 7 債権の消滅—弁済・代物弁済・供託・相殺			
[成績評価の方法] 小テストと期末テストの結果を総合評価する。	[参考文献] 適宜、指示する。			
[教科書] 野村豊弘ほか著『民法Ⅲ 債権総論 [第2版補訂2版]』(有斐閣Sシリーズ)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法Ⅳ		秋学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] この科目は、民法典の第3編「債権」の各論を対象とする。その内容は、債権の発生原因である契約、事務管理、不当利得および不法行為である。 契約は、契約総論と契約各論に分け、前者では契約全体に通ずる契約総論を、後者では、民法典が定める13種類の契約のうち比較的重要度の高い契約(売買、消費貸借、賃貸借など)を中心に説明する。なお、消費者契約法や借地借家法などの特別法にも触れ、一般法である民法典との関係について触れる。 不法行為では、過失責任主義に立つ一般的不法行為(709条)と中間責任を採る特殊的不法行為(714条・715条など)の相違を理解し、失火責任法、自動車損害賠償保障法、製造物責任法や国家賠償法などの特別法との関係についても理解する。	[講義計画] 下記のテーマの中の重要論点について、具体的事例を交えながら講義する。 1 債権各論の対象 2 契約総論：契約の意義・契約の成立・契約の効力・契約の解除 3 契約各論：売買・消費貸借・賃貸借・請負・委任・寄託・組合・和解など 4 事務管理 5 不当利得 6 不法行為：一般的不法行為・特殊的不法行為			
[成績評価の方法] 小テストと期末テストの結果を総合評価する。	[参考文献] 適宜、指示する。			
[教科書] 藤岡康弘ほか著『民法Ⅳ 債権各論 [第2版補訂]』(有斐閣Sシリーズ)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法V		秋学期集中	4単位	佐藤 啓子
<p>〔講義概要・学習目標〕 民法第四編「親族法」・第五編「相続法」を取り上げる。 法職につく人もつかない人も、将来必ず関係するであろうテーマである。 基礎知識の習得と、法学的思考の応用に限らず、ごく一部であるが法社会学、法史学(いわゆる基礎法)の必要な分野であるため、そのようなさまざまな分野のごく小さな入門も兼ねざるを得ない。 また、判例の引用を常に行うことにより、裁判における条文の解釈の展開を学ぶ。</p>	<p>〔講義計画〕 基本的には条文に沿って進める。ただし、離婚と親子法の部分は、昨年と同様進行を組み替えるかもしれない。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席、その態度、小テストと期末テストで評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 特になし</p>			
<p>〔教科書〕 伊藤進編『ホーンブック民法V』(北樹出版) 有斐閣『家族法判例百選』 最新の六法</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑法I		春学期集中	4単位	南 由 介
<p>〔講義概要・学習目標〕 本講義では、刑法総論の講義を行う。刑法総論とは、犯罪と刑罰の基礎理論であり、すべての犯罪に共通して妥当する理論である。講義内容が抽象的になるかもしれないが、それらを考察することによって刑法学を理解することのみならず、法的思考能力、さらには幅広い視野に立ち問題を解決する能力を培うことが可能になると考える。それが本講義の目的である。</p>	<p>〔講義計画〕 犯罪論の基礎、構成要件、違法性、責任、共犯論の順に講義を進めていく予定である。 犯罪論の基礎においては、罪刑法定主義、刑法の適用範囲等を、構成要件においては、因果関係、不作為犯、故意、過失等を、違法性においては、正当防衛、緊急避難、また安楽死の問題等を、責任においては、責任能力等について、論じる予定である。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 試験を行う。</p>	<p>〔参考文献〕 山口厚『刑法総論』(有斐閣、2001年) 井田良『基礎から学ぶ刑事法・第2版』(有斐閣、2002年)</p>			
<p>〔教科書〕 井田良・丸山雅夫『ケーススタディ刑法・第2版』 (日本評論社、2004年春公刊予定)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑法Ⅱ		秋学期集中	4 単位	南 由 介
【講義概要・学習目標】 本講義では、刑法各論の講義を行う。刑法各論とは、個別の犯罪を規定している各刑罰法規の解釈を内容とするものである。各犯罪の構成に関する議論を通じて刑法各論を理解すること、および法的思考能力、さらには幅広い視野から問題を考察し解決する能力を培うことを目的とする。	【講義計画】 個人的法益、社会的法益、国家的法益の順に講義を行う。個人的法益とは、殺人罪、傷害罪、財産犯(窃盗罪、詐欺罪等)等がこれに含まれる。社会的法益とは、放火罪、文書偽造罪等のことである。国家的法益には、公務執行妨害罪、贈収賄罪等がある。			
【成績評価の方法】 試験を行う。	【参考文献】 西田典之『刑法各論・第2版』(弘文堂、2002年) 井田良『基礎から学ぶ刑事法・第2版』(有斐閣、2002年)			
【教科書】 井田良『刑法各論・論点講義シリーズ10』 (弘文堂、2002年)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅰ	01	春学期集中	4 単位	瀬谷ゆり子
【講義概要・学習目標】 商法のうち、経済社会における中心的な宝珠対としての会社に関する法規整の理解を目指す。 会社の設立、運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度を一貫して学修することは、経済社会に身を置くものにとって有益である。とはいえ、経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻繁に法改正が行われており、今後も予定されている。そこでこうした状況をふまえ、それぞれの法改正の背景、意義及び評価を検討しつつ、法律上あるべき会社としての姿に迫ることをも企図している。	【講義計画】 概ね、次に掲げる講義計画に沿って進めるが、その時々話題となっている具体的な事例を取り入れて、できるだけ新しい素材を使った授業をしたい。なお、会社法改正作業が引き続き進行しているため、その動向も盛り込んでいくつもりである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社とは 会社区分 2. 株式会社の設立手続 3. 株式、株主権 4. 株式会社の組織と運営 5. 株式会社の資金調達 新株発行・社債発行 6. 株式保有規制 7. 会社の解散及び清算 8. 企業再編 合併、営業譲渡、会社分割、株式交換、株式移転 9. 有限会社 10. その他の企業組織 			
【成績評価の方法】 試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。	【参考文献】 出版社は問わないが、必ず最新版の六法を用意すること(昨年度のものでも使えません)。			
【教科書】 酒巻俊雄・上村達男編『会社法』(青林書院)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅰ	02	秋学期集中	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法のうち会社法について講述する。会社法といえは会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちだが、実際には会社法の守備範囲はかなり限定的なものである。具体的には「講義計画」に記した通りであり、学生諸君にとってはいかにも疎遠な内容と思われるであろう。講義が無味乾燥なものに陥らないように努力したいが、煩瑣で技術的な規定が多いのも事実である。学習意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。 毎授業時に『六法』を携帯すること。なお私語は厳禁。その他受講時の留意事項については、最初の授業時に述べる。	[講義計画] I 会社法総論 (1)会社の性質 (2)会社の種類 (3)法人成り II 株式会社法 (1)設立(設立手続、定款、仮装払込等) (2)株式(株主の権利義務、株式譲渡、自己株式) (3)株主総会(総会の権限等、総会決議、決議の瑕疵) (4)取締役・取締役会(取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任) (5)監査役・会計監査人 (6)委員会等設置会社 (7)資金調達(新株発行、社債) (8)計算(計算書類、資本・法定準備金、利益配当) (9)基礎的変更(合併・営業譲渡、等) III その他の会社法 (1)有限会社法 (2)合名会社法 (3)合資会社法			
[成績評価の方法] 学期末テストを正誤文選択等の短答式により実施する。	[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成16年版』(有斐閣) *他社の『六法』でも可。 *平成17年版が必要な場合には、秋学期開始時にその旨掲示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅱ		通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
[講義概要・学習目標] 企業の支払手段として重要な手形及び小切手の基本的な知識の取得をめざす。	[講義計画] 手形のうち、約束手形につき、その振出、裏書、支払の順番で、授業を行う。その後、為替手形の特殊性、続いて小切手の特殊性を解説する。講義は、練習問題を解きながら行う。			
[成績評価の方法] 期末の試験で行う。	[参考文献] 六法全書			
[教科書] 蓮井良憲・森淳二朗編〔新商法講義3〕(法律文化社)『手形法・小切手法』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅲ		秋学期集中	4 単位	瀬谷ゆり子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。基幹科目としての民法を学修したものが、この分野の学修をすることで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその内容を理解することを目的とするものである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>概ね、以下のような順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商法とは 商法の特徴 2. 商法の適用範囲 商人と商行為 3. 商号 4. 商業登記 5. 組織と人 商業使用人 6. 商業帳簿 7. 民法と商法の交錯 商事売買に関する法制度 交互計算 8. 様々な営業 代理商、仲立ち、問屋 9. 各種保険 10. 普通取引約款 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>最新の六法。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>國友順一・西尾幸夫編著『商法入門』（嵯峨野書院）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																				
民事訴訟法		春学期集中	4 単位	本 間 法 之																				
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と民法・商法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は、実体法の学習と並んで必要不可欠であり、権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって、初めて権利の何たるかが理解できるといっても過言ではありません。多くの大学の法学部で民事訴訟法が必修科目とされているのはこのためです。</p> <p>法学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものといえます。そこで、本講義の受講者には、商法、さらに秋学期に開講予定の民事執行法および倒産処理法を併せて受講することが望まれます。「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法→倒産処理法」と学んで初めて民事法の全体法が理解できるのです。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>① 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物）</td> <td>⑩ 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任）</td> </tr> <tr> <td>② 訴訟の開始（訴え提起とその効果）</td> <td>⑪ 終局判決による訴訟の終了</td> </tr> <tr> <td>③ 訴訟要件（訴えの利益）</td> <td>⑫ 判決の効力（既判力・執行力・形成力）</td> </tr> <tr> <td>④ 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人）</td> <td>⑬ 判決効の拡張</td> </tr> <tr> <td>⑤ 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義）</td> <td>⑭ 当事者による訴訟の終了 （訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）</td> </tr> <tr> <td>⑥ 訴訟の進行（職権進行主義）</td> <td>⑮ 複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加）</td> </tr> <tr> <td>⑦ 訴訟手続の中断・中止</td> <td>⑯ 訴訟承継</td> </tr> <tr> <td>⑧ 争点整理手続</td> <td>⑰ 上訴・再審</td> </tr> <tr> <td>⑨ 口頭弁論と弁論主義</td> <td>⑱ 国際民事訴訟—国際私法との交錯</td> </tr> <tr> <td>⑩ 口頭弁論における当事者の態度</td> <td>⑲ 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟</td> </tr> </table>				① 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物）	⑩ 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任）	② 訴訟の開始（訴え提起とその効果）	⑪ 終局判決による訴訟の終了	③ 訴訟要件（訴えの利益）	⑫ 判決の効力（既判力・執行力・形成力）	④ 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人）	⑬ 判決効の拡張	⑤ 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義）	⑭ 当事者による訴訟の終了 （訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）	⑥ 訴訟の進行（職権進行主義）	⑮ 複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加）	⑦ 訴訟手続の中断・中止	⑯ 訴訟承継	⑧ 争点整理手続	⑰ 上訴・再審	⑨ 口頭弁論と弁論主義	⑱ 国際民事訴訟—国際私法との交錯	⑩ 口頭弁論における当事者の態度	⑲ 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟
① 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物）	⑩ 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任）																							
② 訴訟の開始（訴え提起とその効果）	⑪ 終局判決による訴訟の終了																							
③ 訴訟要件（訴えの利益）	⑫ 判決の効力（既判力・執行力・形成力）																							
④ 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人）	⑬ 判決効の拡張																							
⑤ 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義）	⑭ 当事者による訴訟の終了 （訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）																							
⑥ 訴訟の進行（職権進行主義）	⑮ 複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加）																							
⑦ 訴訟手続の中断・中止	⑯ 訴訟承継																							
⑧ 争点整理手続	⑰ 上訴・再審																							
⑨ 口頭弁論と弁論主義	⑱ 国際民事訴訟—国際私法との交錯																							
⑩ 口頭弁論における当事者の態度	⑲ 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟																							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と②講義の中で適宜実施する試験の成績とを総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際に、適宜紹介します。</p>																							
<p>[教科書]</p> <p>霜島ほか著「目で見える民事訴訟法教材 第2版」（有斐閣）¥1600・講義では、レジュメを配布する予定です。 講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。 「六法」の種類は問いません。</p>																								

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑事訴訟法		秋学期集中	4 単位	小早川 義 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>刑事訴訟法は刑法を具体的に現実化し「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかに」することを目的とする(刑事訴訟法1条)だけに、解決困難な問題が少なくない。本講義では、具体的事例を取り上げて、その背後にひそむ刑事訴訟法上の諸問題につき分かり易く説明することによって、手続的な思考方法を提示し、その重要性を習得させたい。刑事訴訟法は刑法はもちろんのこと、応用憲法といわれるように憲法とも密接不可分な関係にあるため、とくに刑法および憲法の履習が前提となる。</p> <p>なお、刑事訴訟法を理解する上で役に立つので、可能な限り、秋期開講の「世界市民——米国の刑事裁判制度と人権」をあわせて受講されたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>およそ次の順序ですすめるつもりである。</p> <p>① 刑事訴訟法の意義・目的、 ② 憲法(31条から40条)とのかかわり、 ③ 捜査の端緒、 ④ 任意捜査と強制捜査、 ⑤ 取調べと接見交通権、 ⑥ 弁護人依頼権、 ⑦ 捜査・差押え、 ⑧ 公訴提起、 ⑨ 訴訟の対象、 ⑩ 自白・伝聞法則、 ⑪ 共犯者の自白、 ⑫ 再審</p> <p>なお、テキストにあわせて周知の事件を引用した詳細なレジメの併用を予定している。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点およびテストの総合評価による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>テキストとともに開講日に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストは準備中のため、開講当初に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法Ⅰ (旧行政法)		春学期集中	4 単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法＝国家賠償についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないもので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらおう。憲法、民法を履修した上で、受講してほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>① 取消訴訟の一つの判決 ② 情報公開制度 ③ 取消訴訟の概略 ④ 国家賠償 ⑤ 法律による行政法の原理 ⑥ 行政組織と行政立法 ⑦ 行政行為の概念と種別 ⑧ 行政行為の瑕疵 ⑨ 職権取消と撤回 ⑩ 行政手続 ⑪ 行政計画 ⑫ 行政強制 ⑬ 行政調査 ⑭ 行政指導</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、テストで成績評価を行うが、出席、及び授業時間内に行うテスト・チェックペーパー等も評価に加味する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第4版)』有斐閣 塩野宏『行政法Ⅰ』有斐閣 原田尚彦『行政法要論』学陽書房 芝池義一編『判例行政法入門(第3判)』有斐閣</p>			
<p>[教科書]</p> <p>小高剛『行政法総論(二版)』2001年 ぎょうせい 『ポケット六法 平成16年版』(有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法Ⅱ		秋学期集中	4 単位	寺田友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>多様な内容をもつ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。その理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校といわれる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得という点だけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。更に、そこで勤務する職員の法的地位について理解を深めるために、「地方公務員法」を「国家公務員法」と対比して講義する。</p> <p>春学期において「行政法Ⅰ」を履修して受講することが好ましい。</p> <p>「行政法Ⅰ」で不十分にしか講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について理解を一層深める。地方自治法または公務員法をめぐって生じる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>地方自治法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地方自治の本旨とは 2 地方公共団体の種類と区域 3 地方公共団体の住民 4 普通地方公共団体の事務と立法権 5 普通地方公共団体の議会 6 普通地方公共団体の執行機関 7 長と議会との関係 8 地方公共団体の財務 9 国と地方公共団体との関係 <p>地方公務員法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公務員の意義 2 公務員の種類 3 労働基本権の制約 4 地方公務員法の特例(地方公営企業の職員・消防職員・警察職員) 5 人事行政機関(任命権者と人事委員会・公平委員会) 6 公務員の任用 7 勤務条件 8 公務員の責任 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、テストで成績評価を行うが、出席、及び授業時間内に行うテスト・チェックペーパー等も評価に加味する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>別冊ジュリスト『地方自治判例百選(第3版)』(有斐閣)</p> <p>その他、講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>『ポケット六法 17年版』(有斐閣 2004年10月出版予定)</p> <p>その他、後期開講前に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際法		秋学期集中	4 単位	軽部恵子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このクラスでは国際法の基礎を習得します。国際法がわかると、新聞やTVの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。</p> <p>国際法の履修には世界史の基礎的知識が必要不可欠です。春学期の国際機構論では、国際法・国際機構論の視点から世界史上の主なできごとを取り上げつつ、講義を進めます。国際法を履修する人は、国際機構論を先に履修するか、高校程度の世界史を予め自分で勉強して下さい。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。</p> <p>国際法に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ等を教材として使用します。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際法とは何か：「国」と「国際」の意味、合意秩序 他 2. 国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議、2つの世界大戦 他 3. 国際法の基本原則：「合意は拘束する」 他 4. 国際法の法源：条約、慣習法、判例、強行規範 5. 国際法の主体：国家、国際機構、人民、個人 6. 国家：国家の要件、主権、国家の基本的権利と義務、国家管轄権、国家責任、国家承認と政府承認、国家承継、外交使節、外交特権、領事 7. 領域：領域の得喪、領土、海の国際法、空の国際法 8. 条約：条約案の交渉、署名、批准、加入、改正、終了、無効、留保、条約の承継 他 9. 国際紛争：紛争の平和的解決、武力紛争の規制、戦争の違法化、自衛権、軍縮 他 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験(2005年1月)</p> <p>※ 講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>— 国際機構論のページも見て下さい —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際法学会編『国際関係法辞典』三省堂 1995年 ・山本草二『国際法(新版)』有斐閣 1994年 ・横田洋三編『国際法入門』有斐閣 1997年 ・大沼保昭編『資料で読み解く国際法』第2版 全2巻 東信堂 2002年 ・『世界の戦争・革命・反乱 総解説』自由国民社 1998年 ・田畑茂二郎編『ケースブック国際法(新版)』有信堂高文社 1995年 <p>※ その他の文献については、随時指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有斐閣『国際条約集2004』<生協にて一括購入> ・教員作成の資料 <p>※ 履修登録前に「2004年度 国際法・国際機構論を履修する皆さんへ(勉強のガイド)」を必ず読んで下さい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法		通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
[講義概要・学習目標] 独占禁止法の基本的知識と応用力の 取得を目標とする。				[講義計画] 独占法の集中規制, カルテル規制および 不公正な取引方法, 独占法の実理手段ならぬ に独占法の適用除外制度を順番に講義する。 独占法の理解には, 判例および審決の具体的 事例の検討抜きには考えられないために, 判例百 選を常時参考する。
[成績評価の方法] 最終の期末試験の成績と判定する。				[参考文献] 六法全書
[教科書] ①白石忠志『独占法講義第2版』(有斐閣) ②厚谷襄見, 榊原俊文編『独占法審決判例百選第6 版』(有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
労働法		8・12月集中	4 単位	山 口 浩一郎
[講義概要・学習目標] 労働法を個別労働関係と集団労働関係に分けて, 判例を中心に に勉強する。法律や判例が日本の雇用者(行と)についてい か、どうかどう変化しているかに留意して講義する。 全体の構成は講義計画を参照				[講義計画] 次の内容を2回に分けて講義 I 雇用社会とその変化 II 労働法の法理 III 賃金と労働時間 IV 非典型雇用の諸形態 V 労働条件と就業規則 VI 雇用の問題となる諸問題 VII 労働関係 VIII 労働協約 IX 不当労働行為 X 非雇用労働者の世界
[成績評価の方法] 主として筆記試験。これに授業中の■質疑応答を加味。				[参考文献] ・安枝英評・西村健一郎『労働法(改訂版)』(有斐閣) ・小型のものでよいから、六法全書
[教科書] 菅野和夫・西谷和・松村尚志編 『労働法判例百選(改訂版)』(有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社 会 福 祉 法 (旧社会福祉法制論)		春学期集中	4単位	瀧 澤 仁 唱
[講義概要・学習目標] 1. 社会福祉の法体系及び関係法の概要を理解させる。 2. 社会福祉の実施体制の概要を理解させる。 3. 社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度を理解させる。 4. 我が国における公私の役割分担を理解させる。	[講義計画] 1. 我が国における社会福祉行政の歴史的展開 2. 社会福祉法制の概要 1) 福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要 2) 社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤 (民生委員法、日本赤十字社法、社会福祉・医療事業団法を含む) 3) 関連法の概要 (介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法等) 4) 社会福祉計画 (老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画、地域福祉計画) 5) 地方自治体の独自事業 3. 社会福祉の実施体制 (国と地方の役割、行政機関と関係機関、措置制度) 4. 社会福祉の財政と費用負担 5. 社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方			
[成績評価の方法] 論述式筆記試験	[参考文献] 『社会福祉六法 2004 (平成16) 年版』 (新日本法規)			
[教科書] 法改正が多く、適当な教科書が間に合わないので、別途指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法女性学		秋学期集中	4単位	松 田 聰 子
[講義概要・学習目標] 男女共同参画社会基本法が制定されて、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが具体化してきている。法女性学では、民法や社会保障法などを素材にわが国における女性・男性・性をとりまく法環境を概観し、男女共同参画の視点から法制度の問題点を探っていく。	[講義計画] 1. 墮胎罪と中絶規制 2. 中絶と生む権利 3. 優生保護法から母性保護法へ 4. 家族と法・婚姻成立の要件と課題 5. 家族と法・人工生殖と子 6. 家族と法・人工生殖とフェミニズム 7. 家族と法・「選択的夫婦別姓制」の論点 8. 家族と法・「離婚制度」見直し論 9. 家族と法・夫婦財産制 10. 日本型福祉社会の問題点・介護と保育 11. 日本型福祉社会の問題点・女性の年金 12. セクシュアリティ・売買春規制 13. セクシュアリティ・性暴力と刑法 14. セクシュアリティ・セクシュアルハラスメント 15. 労働法と女性 16. 男女雇用機会均等法の課題 17. 女性と政治 18. 女性差別撤廃条約・北京会議・日本			
[成績評価の方法] 学期末に行う論述試験で判断	[参考文献] 浅倉むつ子『ジェンダー法学』不磨書房 金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣 山下泰子他『法女性学への招待』有斐閣 角田由紀子『性差別と暴力』有斐閣 副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣			
[教科書] 参考文献のほか、とくに用いない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民事執行法		秋学期	2 単位	本 間 法 之
[講義概要・学習目標] 民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法・商法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることとなります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。 民事執行法は、「民法・商法→民事訴訟法」に続く民事法の一連の流れの延長線上にあります。本講義を受講する学生諸君には、商法、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の倒産処理法を併せて受講することが望まれます。	[講義計画] 1 民事執行総説 2 不動産執行 ① 強制競売の開始—差押え ② 売却条件・売却の準備・売却 ③ 買受人の法的地位 ④ 引渡命令 ⑤ 執行競合・配当要求 ⑥ 配当・配当意義訴訟 3 動産執行 ① 差押え ② 換価 ③ 配当 4 債権執行 ① 金銭債権の執行 ② 動産引渡請求権に対する執行 5 担保権の実行手続 6 民事保全法—仮差押え・仮処分			
[成績評価の方法] ①平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、②講義中に適宜実施する試験の成績とを総合的に評価します。	[参考文献] 講義の際に、適宜紹介します。			
[教科書] 講義では、レジュメを配布する予定です。 講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倒産処理法		秋学期	2 単位	本 間 法 之
[講義概要・学習目標] 倒産処理法とは、破産法、民事再生法、会社更生法、商法上の会社整理および特別清算の総称です。倒産法とも呼ばれています。倒産は、まさに法律問題の《るつぼ》であり、種々の法領域に関わる問題の処理が求められます。言い換えれば、実体法と手続法が激しく交錯する場が倒産処理法です。本講義では、破産法、民事再生法、会社更生法を中心に、倒産処理法の基礎を概説します。 倒産処理法は、「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法」と続く民事法の流れの、いわば最後に位置するものということができます。本講義を受講する学生諸君には、商法、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の民事執行法を併せて受講することが望まれます。	[講義計画] ① 倒産法制と私的整理 ② 個別執行（民事執行）と包括執行（倒産処理） ③ 倒産処理手続の開始 ④ 倒産処理手続における債権の処遇 ⑤ 倒産処理と担保権 ⑥ 倒産処理手続と倒産債務者をめぐる法律関係 ⑦ 否認権 ⑧ 倒産処理手続の終了 ⑨ 消費者の破産と免責・個人債務者の再生手続 ⑩ 民事再生と会社更生 ⑪ 企業再生と M&A ⑫ 国際倒産			
[成績評価の方法] ①平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、②講義中に適宜実施する試験の成績とを総合的に評価します。	[参考文献] 講義の際に、適宜紹介します。			
[教科書] 講義では、レジュメを配布する予定です。 講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法哲学		通 期	4 単位	沼 口 智 則
【講義概要・学習目標】 「法とは何か」という問いは、法を学ぶ者にとり最初に問い、そして最後に もう一度問う問題である。 法哲学は、この問いに正面から 与らねばならないと云う。法を通じて、現代を とらえ 未来を展望するための基軸(視座)と獲得するための旅が、この問いから始まる。本講義では、「正義・権利・人権」を中心に法哲学の基本問題にアプローチしていきたい。		【講義計画】 メイン・テーマ「正義・権利・人権」 1. 法哲学とは何か 1) 法概念論(法の一般理論) 2) 法的推論(法学方法論) 3) 法価値論(正義論) 2. 欧米諸国の法哲学の傾向ー英・米・独を中心としてー 3. アジア諸国の法哲学の傾向ー日本・韓国を中心としてー 4. 現代正義論・権利論・人権論 5. 現代法哲学と二十一世紀の諸問題 ー「たとえば」生命倫理・地球環境問題・核問題・民族や宗教紛争・テロ問題 等... ー		
【成績評価の方法】 夏休みに簡単なレポート(指示する課題図書の中から選択)を書いてもらうとともに、学年末試験(論述式選択問題)で総合評価する。		【参考文献】 開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義で その都度 指示する。		
【教科書】 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 理 学		秋学期集中	4 単位	山 川 偉 也
【講義概要・学習目標】 論理的に物事を考えることの訓練、これは、現代のグローバル化された時代において最も重視されている事柄である。この講義では、論理的に推論することの訓練を徹底的に行いたい。考えることの嫌いな人にとっては少しばかり苦痛がましれないが、努力する人には楽しい授業になる、と思う。		【講義計画】 筋道を立てて考えるとは、どういうことであるかの解説から始め、次第に命題論理の基本の習得、その簡単な練習問題を解く訓練へと入っていき、キャロルの格子図を用いた命題論理や述語論理の訓練の領域へと進んでいくことにす。		
【成績評価の方法】 たえず小テストを行う。その結果を重視するから、常時出席していただかなければならない。であるから、出席率も重視する。		【参考文献】		
【教科書】 山川・清水共著『論理開眼』世界思想社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法制史		通 期	4 単位	和 田 卓 朗
【講義概要・学習目標】 主に 18 世紀までを対象とするドイツ法制史（ドイツ国制史、近世私法史、刑事司法史）をヨーロッパ全体を視野に入れつつ概観することが中心となるが、その前提として必要な限りでローマ法史、中世法史にも言及することになる。その際、中華世界（東南アジアと多島海地域、北・中央アジアは日本とともにその周縁をなす。チベットは中華世界とインドという二つの中核の周縁）、東地中海世界（西欧、ロシア、イスラームはその周縁）、インド、アメリカ、サハラ以南のアフリカ、オーストラリアと太平洋の島々という複数の世界が 13/14 世紀のモンゴル、15 世紀末以降のスペインとポルトガルを先頭に立てた西欧の活動によって、ウォラーステインの言う世界システムに組み替えられていった世界史の構造を踏まえて考察するので、西洋法制史と中国法制史や日本法制史との比較を通じて、西洋法制史に限られない「法制史」の名に値する講義が可能になるであろう。以上のような構想による「法制史」の教科書は未だ存在しないし、このように盛り沢山の内容を授業だけで消化することは到底無理なので、授業の中で紹介する多くの参考書を読んでもらうことが是非とも必要になるが、それらを読む上での指針を提供するような講義を心懸けたい。	【講義計画】 (1)世界史の構造と西洋法史の位置 (2)ローマ法史概説（一ニ表法からユスティニアヌスのいわゆるローマ法大全まで） (3)卑属ローマ法と古典古代から中世へ。西欧の誕生 (4)メーロヴィンガーとカーロリングのフランク帝国（古典古代から中世へ。西欧の誕生） (5)ザクセン＝ザリアー朝と叙任権闘争（帝国教会政策とその変容） (6)シュタウファー朝の封建王政（「神の平和」と「国の平和」） (7)中世ローマ法学（註釈学派とポスト註釈学派）と教会法学（教令学者と教皇令学者、いわゆる教会法大全と標準註釈） (8)ザクセンシュピーゲルとシュヴァーベンシュピーゲル (9)アイゲンとゲヴェーレ (10)帝国カンマー裁判所と帝国宮廷顧問会（付：帝国改革） (11)判例文献と近世法学の形成 (12)ポリツァイの概念とポリツァイ学の発達 (13)普通刑事法学 (14)自然法学と法典編纂 (15)近代法史概観（歴史法学派、ドイツ法学派、「学派の争い」、構成法学、自由法学と法社会学、利益法学、評価法学）			
【成績評価の方法】 講義への出席状況（皆勤を 40 点として、それに出席率を乗じて出席点とする。出欠確認の方法については目下考慮中）と学期末の試験（満点は 100 点）の結果を踏まえて、80 点以上を「優」、79～70 点を「良」、69～60 点を「可」、60 点未満を「不可」とする。どんなに要望があっても、レポート提出による落第者の救済はしない。	【参考文献】 クヌート・W・ネル（村上淳一訳）『ヨーロッパ法史入門：権利保護の歴史』（東京大学出版会）、K・クレッシェル（石川武監訳）『ゲルマン法の虚像と実像——ドイツ法史の新しい道——』（創文社）、村上淳一『近代法の形成』（岩波全書、絶版）、村上淳一『法の歴史』（東京大学出版会）、原田慶吉『ローマ法』（有斐閣全書、絶版）、野田良之『フランス法概論（上）』（有斐閣全書、絶版）、ハンス・シュロツァー（大木雅夫訳）『近世私法史要論』（有信堂高文社）、宮崎市定『中国史（上）・（下）』（岩波全書）、杉山正明『モンゴル帝国の興亡（上）・（下）』（講談社現代新書）、渡辺金一『中世ローマ帝国』（岩波新書黄版）、それに中央公論社の『世界の歴史』の新シリーズ、講談社の新しい『日本の歴史』のシリーズ、平凡社ライブラリーの『キリスト教史』全 11 巻は必読書。さらに、『法学雑誌（大阪市立大学）』44 巻 1 号（1997 年）以下にほぼ毎月発表してきた私の作品は、授業の補助教材として執筆したもので、随時参照してもらいたい。			
【教科書】 教科書は存在しないが、それに準じるものとして、エーベルハルト・ヴァイス（和田卓朗訳）『近世社会の諸構造と発展(1)～(7)完』、『法学雑誌（大阪市立大学）』44 巻 4 号（1998 年）～47 巻 1 号（2000 年）と同『帝国』から国際社会へ——歴史の視から——』、『法学雑誌（大阪市立大学）』48 巻 4 号（2002 年）（なお、『法学雑誌（大阪市立大学）』49 巻 1 号（2000 年）184-193 頁、49 巻 2 号（2002 年）166-167 頁、49 巻 4 号（2003 年）131 頁の訂正・追加も参照）。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国法		通 期	4 単位	沼 口 智 則
【講義概要・学習目標】 外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特徴とは何かといったことについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえ講義を進めたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審査制の仕組み・アメリカ連邦制の特徴・判例法原理などを具体的に判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴と日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法文化社会」（＝「訴訟型契約社会」）のいっしょに展望していきたい。	【講義計画】 1. 英米法総論 ・英米法の歴史と特徴 ・コモン・ロー（判例法）原理 2. イギリス法 ・人権の成立とその発展 ・コモン・ロー（判例法）原理 3. アメリカ法 ・司法審査制 ・アメリカ連邦制 ・コモン・ロー（判例法）原理 4. 英米法と日本 ・日本の「法文化社会」＝「訴訟型契約社会」のいっしょ			
【成績評価の方法】 夏休みには「簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験で総合評価する。	【参考文献】 開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。			
【教科書】 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学原論		通期	4単位	ささげ 捧 堅 二
[講義概要・学習目標] 政治学の原理及び現代の政治理論について講義する。 したがってこの講義は、いまの政治についての初歩的な知識や情報をもたないひとのために、いまの政治についてわかりやすく解説するための講義ではない。いつもニュースに接するなど政治に興味や関心をもっている学生諸君の受講を期待したい。	[講義計画] 1 原理と自然 2 民主主義 3 人間と政治 4 イデオロギー 5 政党 6 国家 7 ヘルと行政幹部 8 右翼と左翼 9 天皇制 10 選挙とクジ引き 11 ウェーバーの理論 12 丸山真男の理論			
[成績評価の方法] ①出席状況(年間で3分の2以上の出席が必要) ②選挙についてのレポートを出してもらいます。 ③年度末に筆記試験を実施する。 (成績評価は厳格におこなう)	[参考文献] 講義の際に随時あげる。			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際関係論		秋学期集中	4単位	松村昌廣
[講義概要・学習目標] 国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。	[講義計画] 1 導入 1) 国際関係論と国際関係における日本 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解 3) 社会科学における認識・方法的論争と国際関係論 (1) 現実主義 VS 理想主義 (2) 伝統主義 VS 科学主義 (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義 (4) 講師の見解 2 総論 1) 基本的捉え方 (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム (4) 講師の見解 2) 分析のレベル (1) 政策決定システム (2) 国家システム (3) 国際システム (4) 講師の見解 3 各論 1) 軍事的側面 (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解 2) 経済的側面 (貿易・金融・投資・技術・開発) (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義 (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解 3) 秩序づけのための組織化側面 (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム 4 結論 1) 冷戦後の国際構造 2) 日本の国際行動とその将来			
[成績評価の方法] 1) 出席・受講状態 50% 2) 前期試験 20% 3) 後期試験 30% 4) 冬休みレポート 20% (希望者のみ) *冬休みレポート 参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しなさい。 **評価の目安 80~100% A 70~79% B 60~69% C				
[教科書] P.ピオティ&M.カピ『国際関係論』(彩流社) ロバート・ギルビン『世界システムの政治経済学』(東洋経済新報社) 但し、後者については絶版となっているので、必要箇所をコピーのうえ配付する。前者については、各人、確保すること。	[参考文献] E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫) モーゲンソー『国際政治』(福村出版) シューマン『国際政治』(東大出版会)			

法
学
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治史		春学期集中	4 単位	鈴木博信
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>国際政治史を、第二次戦後の米ソ超大国が角逐した「冷戦」の時代を中心として述べることにしたい。</p> <p>近年急速に変わりあつた米ソ連の崩壊したあとには、利権と強権の争奪のロビイなど、不安定な旧ソ連圏諸国が並立している。北朝鮮と中国の対立、冷戦国は、二対的イラク戦争を強行して世界をけん引させつつある。</p> <p>さらに現代の前身となる「冷戦史：1945～1991」の時代を回顧し展望する。</p>	<p>1. ヨーロッパにおける冷戦の起源：1945～49</p> <p>2. 共産中国とアジアにおける冷戦：1945～53</p> <p>3. 平和共存と核対決：1953～64</p> <p>4. アメリカとベトナム：1945～75</p> <p>5. 米ソ両超大国と共産中国：1949～80</p> <p>6. 70年代米ソ間「緊張緩和」の進行と停滞</p> <p>7. レーガン、ゴルバチョフ、冷戦の終わり：1981～91</p> <p>8. 「冷戦後」の世界</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>1. 年度末試験 科目 各々のレポート。</p> <p>2. 必要に応じて小レポートを課すことあり。</p>	<p>・高坂正純「現代の国際政治」講談社学術文庫 1989</p> <p>・仲見「ソ連・アメリカへの転向」岩波書店 1992</p> <p>・森本良男「冷戦—人と事件」サイマル出版会 1995</p> <p>・アダム・ウラム「崩壊と共存—ソ連の外交史」全3巻 (鈴木博信 訳) サイマル出版会 1974</p> <p>・フローラ・ルイス「ヨーロッパ」全2巻 河出書房新社 1990</p>			
[教科書]				
<p>特定の教科書は使用しないが、授業中 指示するものがあるため、参考文献は 必ず 読んでほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際機構論		春学期集中	4 単位	軽部恵子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>このクラスでは国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器の拡散、環境破壊、貧困など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について勉強したい人、国際問題に強くなりたい人など、意欲的な学生を待っています。</p> <p>国際機構論では、大学生なら誰にでも必要な世界史の基礎的知識を確認しつつ講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、国際機構論から履修するよう強く勧めます。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。</p> <p>国際機構に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ（HP）等も教材として使用します。</p>	<p>1. 国際機構とは何か：「国際」の意味、国際機構の定義</p> <p>2. 国際機構の歴史：ウィーン会議、ハーグ平和会議、国際行政連合、赤十字国際委員会</p> <p>3. 第一次世界大戦と国際連盟の設立：ウィルソン米大統領の「14カ条」、パリ講和会議、国際連盟規約 他</p> <p>4. 第二次世界大戦と国際連合の設立：ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、サンフランシスコ会議 他</p> <p>5. 国連の目的と仕組み：国連憲章、主要機関（総会、安保理、経済社会理事会、信託統治理事会、事務局、国際司法裁判所）、国連の専門機関、NGO、国連HP実習</p> <p>6. 国際の平和と安全の維持：紛争の平和的解決、安保理と拒否権、幻の「国連軍」、平和維持活動 他</p> <p>7. 軍縮問題への取り組み</p> <p>8. 経済・社会・人権・人道問題への取り組み</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>学期末試験（2004年7月）</p> <p>※ 講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。</p>	<p>— 国際法のページも見て下さい —</p> <p>・吉田康彦『図解国連のしくみ』日本実業出版社 1995年</p> <p>・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年</p> <p>・横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院 2000年</p> <p>・同編著『新版 国際機構』国際書院 2001年</p> <p>・高井晋『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年</p> <p>・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年</p>			
[教科書]	※ その他の文献については、随時指示する。			
<p>・国連広報局編『国際連合の基礎知識』増補改訂第6版、世界の動き社、2002年 <生協にて一括購入></p> <p>・教員作成の資料</p> <p>※ 履修登録前に「2004年度 国際法・国際機構論を履修する皆さんへ（勉強のガイド）」を必ず読んで下さい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治事情研究		春学期集中	4 単位	松村昌廣
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では発展途上世界を比較分析するために基本的な発想、着眼点、分析手法を会得することが求められる。手順としては、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。</p> <p>しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、右の「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。これにより、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。</p> <p>ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。したがって、国際関係論や政治学のコースを履修したことがない者でもかなり理解できるような教授法となる。(私の「国際関係論」も是非チャレンジすることを強く進める。)</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 総論</p> <p>1) 国際関係論と地域研究</p> <p>2) システム論的アプローチ</p> <p>3) 比較研究アプローチの危機 …… 「理論の島々」</p> <p>2. 各論</p> <p>1) 民族紛争</p> <p>2) 国際テロ・アフガン・イラク問題</p> <p>3) 東アジア</p> <p>(1) 朝鮮民主主義人民共和国</p> <p>(2) 中華人民共和国</p> <p>(3) 日本</p> <p>3. 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Aを目指す学生 …… 講師の指示に従い研究レポートを作成</p> <p>B・Cを目指す学生 …… 通常の学年末試験を受ける</p> <p>出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>H・J・ウィーアルダ「比較政治の新動向」東信堂、1991。</p> <p>G・アーモンド、B・パーウェル「比較政治」時潮社、1986。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>購入の必要はない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅰ (旧地域研究Ⅰ (欧米の政治と社会))		通期	4 単位	ささげ 捧 堅 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代のアメリカ及び西欧について政治を中心に歴史や思想もまじえて講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 大統領制と議院内閣制 2 ビーブルのアメリカ</p> <p>3 アソシエーションと市民社会 4 共和主義とは何か</p> <p>5 イギリス、君主制 6 リベラリズムと何か</p> <p>7 ロウズヴェルトからケネディへ 8 アメリカの保守</p> <p>9 クリントンと「第三の道」 10 イギリス政治の伝統</p> <p>11 労働党と福祉国家 12 ブレアと「第三の道」</p> <p>13 超大国アメリカ 14 冷戦から「ポスト冷戦」へ</p> <p>15 イラク、北朝鮮</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席状況(年間で3分の2以上の出席が必要)。</p> <p>②レポートを実施するかも知れない。</p> <p>③年度末に筆記試験を実施する。 (成績評価は厳格におこなう)</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の際に随時あげる。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅱ (旧地域研究Ⅱ (ロシア・東欧の政治と社会))		秋学期集中	4 単位	鈴木博信
[講義概要・学習目標] ソビエト帝国の興亡を、ソビエト連邦本体を中心とした。その、建国の理念であるマルクス＝レーニン主義について、時局をかりて解説する予定。とせ、レーニン主義とスターリン主義の関係についても論じる。		[講義計画] 1. 共産主義の理論と行動計画 1-1. 歴史的先行者たち 1-2. マルクスとエンゲルス 1-3. 社会主義の崩壊 2. レーニン主義 2-1. ロシアの革命伝統 2-2. 1917年の革命 2-3. 革命の輸出 3. スターリンの帝国 3-1. スターリン書記長 3-2. 工業化と集団化 3-3. 大粛清 3-4. 第二次大戦とロシアの戦域 3-5. 東欧の膨張と帝国の崩壊 4. 改革者1-フルシチョフ 4-1. スターリン批判 4-2. 東欧の激動(1) 5. ブレジネフの「停滞」時代 5-1. ソ連と中国 5-2. 東欧の激動(2) 5-3. アフガニスタ 6. 改革者2-ゴルバチョフ 6-1. 改革の核心 6-2. 東欧の激動(3) 帝国の崩壊 6-3. 2人の大統領と帝国の崩壊 7. 西側の対応 7-1. 西側の同盟者、同盟者 7-2. ナチズム、冷戦期		
[成績評価の方法] 1. 年度末試験 及び 中間レポート を課す。 2. 必要に応じて小レポートも。		[参考文献] 随時 指示する。 以下の— ・マシケル・ゴママン「強奪されたロシア経済」NHK出版 2003 ・マシケル・ゴママン「ソビエトの悲劇」上2巻 草思社 1997 ・マシケル・ゴママン「膨張と共存」全巻 中央出版 1974 ・マルクス、エンゲルス「共産主義者宣言」太田出版 1993 ・川崎富男里ほか「ロシア・ソ連を知る事典」平凡社 1990 ・伊東孝之ほか「東欧を知る事典」平凡社 1993 ・山川出版社刊の 各国現代史シリーズ 中の、ソ連、東欧 各国現代史。(※岩波文庫版の「共産主義宣言」でも可)		
[教科書] とくに指定はしないが、 参考文献は以下のとおり。 味、著書、 メイリア、ウラム 等は必読。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	51	春学期集中	4 単位	鈴木博信
[講義概要・学習目標] ロシアの外交を支える 知識者ネオコン(新保守主義者たち)の思想と政策の代表的論者、ロバート・ケイガン ベストセラー「OF PARADISE AND POWER」を直訳・直解する。 これをうけて、アメリカの保守的イデオロギーの考査を体得しておく。 (下記 教科書は外国書である。 各入手自体が至難にたが、大きな書店に電話するなり、www.amazon.com, www.amazon.co.jp などのサイトから入手するなりして、各自で用意された。 定価はハードカバー本で18ドルであるが、これをよほど割引された。 電子版は10ドル程度である。)		[講義計画] 1. テキストは、明快・簡潔な英文で、参加者に順次 分担してもらう。 読み出しも。 2. 出席のしるしは、かならず 英和辞典を携行すること。 3. テキストには 訳書もついていて、随時 参照することをするが(「ネオコンの論理」)、むしろ 訳書の土台となる 原文の理解が 徹底するよう、と心に定めた。		
[成績評価の方法] 出席状況と授業中の報告が5割、 学期末のレポートが5割、の割合で評価の予定。		[参考文献] 随時 指示するが、 「アメリカ現代史」について、各自で用意しない範囲の文献や情報にふれておくこと。 ヨーロッパについては、最低限の書籍をふんじおくこと(必読)。 ・クリスチーナ・オクラン、伴野文夫訳 「語り継ぐヨーロッパの歴史」(NHK出版、2002) —ヨーロッパの歴史—		
[教科書] Robert KAGAN, OF PARADISE AND POWER: America and Europe in the New World Order (New York: Alfred A. Knopf, 2003)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	0 1	通 期	2 単 位	田 中 秀 穂
	0 2	通 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。</p> <p>ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、覚えなくてはならないことも少なくはない。しかし、積極的に授業に取り組み反復練習を心がけ、ドイツ語の表現のしかたを確実に身につけてもらいたい。</p>		<p>0. アルファベット、発音</p> <p>1. 動詞の現在人称変化</p> <p>2. 名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞</p> <p>3. 語順、不規則動詞</p> <p>4. 定冠詞類と不定冠詞類</p> <p>5. 副文</p> <p>6. 助動詞</p> <p>7. 分離動詞、zu 不定詞</p> <p>8. 動詞の3基本形、過去人称変化、</p> <p>9. 現在完了形</p> <p>10. 再帰動詞</p> <p>11. 形容詞の格変化</p> <p>12. 比較級と最上級、命令法</p> <p>13. 関係代名詞</p> <p>14. 受動態</p> <p>15. 接続法</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a (初級文法) のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>				
[教科書]				
<p>著 者： 大岩 信太郎</p> <p>書 名： 新正書法版・身につくドイツ文法</p> <p>発行所： 同友社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	0 1	通 期	2 単 位	高田里恵子
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>このクラスでは、I a で習った文法事項を応用しながら、いろいろなことに挑戦してみたい。さらに、授業を通じてドイツという国を知ってもらいたい機会も設けたいと思っている。</p> <p>ドイツ語の発音は英語に比べてずっと簡単なのだが、にもかかわらず、中級クラスになっても、大きな声で堂々と話すことが不得手な学生が多いようである。それで、ここでは、声を出してドイツ語を読んでみる、発音してみるという練習に特に力を入れる。</p>		<p>1. 徹底的に発音練習をしてみよう！</p> <p>2. いろいろな場面の会話を試してみよう！</p> <p>3. 短い物語を読んでみよう！</p> <p>4. ドイツについてもっと知ってみよう！</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>前期と後期の最後に試験を行なう。成績（可否）は I a の担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。</p>		<p>授業中に指示する。</p>		
[教科書]				
<p>教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。また、I a で使用する文法の教科書と独和辞書を毎回持参すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	【講義計画】 1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 西村、Petrik 『改訂版 ドイツ語へようこそ』 同友社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	01	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
【講義概要・学習目標】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、平易で自然な会話文を通してフランス語のしくみをきちんと理解し、一年間で基礎をしっかりと身に付けることを目指します。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじむこととなります。また、学んだ文法事項については必ず応用練習をしますので、実習のつもりで積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書は必ず持参すること。	【講義計画】 最初の授業ではフランス語の発音練習をおこない、その後は以下に示す文法事項を教科書に出てくる順で習得していきます。 1. 名詞の性と数；不定冠詞；定冠詞；部分冠詞 2. être、avoir、-er動詞、その他の主な動詞の直説法現在 3. 否定形；命令形；疑問文 4. 形容詞の一致；指示形容詞；疑問形容詞；所有形容詞 5. 前置詞 à、de と定冠詞の結合 6. 補語人称代名詞；人称代名詞強勢形；代名動詞 7. 複合過去；近接過去；近接未来 8. 使役動詞；受動態；現在分詞			
【成績評価の方法】 前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。	【参考文献】 辞書については最初の授業で指示します。			
【教科書】 倉方秀憲、セルジュ・ジュンタ、ティエリー・トルード 共著 「ヌーヴ`オー・セラウ`イ」 （早美出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	0 2	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
[講義概要・学習目標] 会話的スケッチ文を読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた、正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的内容のある表現もできるように、口頭・筆記による練習を、積極的に行います。	[講義計画] 会話表現として、必要不可欠な文法を最低限学習します。特に、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが分かるはかりで、発信できる授業をします。毎回の小テストは、スケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生の方から、用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語で答える、			
[成績評価の方法] 出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テストとレポートを行います。	[参考文献] という相互形式で授業をすすめます。			
[教科書] プリントを使用。	『クラウン和辞典』 三省堂			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	0 1	通 期	2 単位	オリヴィエ・ビルマン Olivier Birman
[講義概要・学習目標] フランス語が使われている社会で積極的にコミュニケーションに参加できる能力の養成を目標にしています。 使用する教材(『ディアローグ』)は、日本人の初心者を対象にしたフランス語コミュニケーション教材です。 なお教科書と連動して、フランス語 I b クラス用の文法、作文、読書の練習のプリントを作ります。	[講義計画] <前期>自分について述べる/挨拶する 人を紹介する 買い物をする/評価する どこかへ行く/注文する 物や人を描写する/評価する等々 <後期>買い物をする/提案する/拒否する 自分について述べる/人を紹介する/評価する 提案する/承諾する/拒否する/執拗に求める/ 評価する 電話する/情報を求める等々			
[成績評価の方法] 成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験	[参考文献] 『東京一بار、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田知子、S. Gillet、駿河台出版社、1997年 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995年 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990年			
[教科書] 『ディアローグ』 著者：オリヴィエ・ビルマン、木内良行 他 第三書房、1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	0 2	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
[講義概要・学習目標] この授業では、フランス語の「話す」「聞く」という面に重点をおき、ビデオ教材を並用しながら、口頭による会話表現の練習を繰り返していくことでフランス語の基本的な運用力を身につけていく。	[講義計画] <前期> 4月中は主に発音練習を行なうが、それと同時にあいさつや新しい自己紹介などの表現を覚えてフランス語の感覚を身につけていく。またビデオ教材で「聞く」練習も行なう。5月以降フランス語の基本表現を中心に様々な状況における会話を学んでいく。 <後期> 自分の紹介に加えて、日常生活を表現したり、相手にたずねたりするなどの多様な練習を行っていく。			
[成績評価の方法] 前・後期試験と平常点で総合評価する。	[参考文献]			
[教科書] 『話したくなるフランス語-全面改訂版-』 岩間直文著 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	0 1 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario
[講義概要・学習目標] (学習目標) スペイン語に慣れ親しみ、基礎的な発音の習得や、初歩的な会話表現を身につける。 (講義内容) ラテン語から派生したスペイン語は、世界の数多い国々で使用されている。日本語と母音が類似していることもあり、音声面からは大変親しみやすい言語であるが、黙読でなく恥ずかしがらずに声をしっかり出して読む、話すことを心がけなければ、語学を身につけることが半減してしまうでしょう。 本講義では、まず正しい発音で文章を読むことから始まり、辞書を活用することにより語彙力、読解力を養います。又、実践的に使える会話表現を覚えます。 語学習得には、口頭反復練習が大切であるが、会話表現を豊かにする為に西和和西 1冊になった小辞書の携帯を必要とします。	[講義計画] (前期) 1 スペイン語の発音と読み方 2 挨拶、自己紹介、時間や曜日の尋ね方等の初歩的な会話表現 3 辞書を活用しての簡単な文章の読解 (後期) 1 動詞や疑問詞を使つての作文練習 2 基本文型を応用した会話練習 3 ヒヤリングの力を身につける			
[成績評価の方法] 小テストの平常点と出席点とで総合評価する。	[参考文献]			
[教科書] 辞書の携帯を必要とする。 プリント配布。				

初
修
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I b	01	通 期	2単位	松 平 マリア
	02	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標] <p>この講義の目的はスペイン語の文法と日常会話でよく使われるスペイン語の表現を覚えることです。講義の特徴はスペイン、アルゼンチンとラテンアメリカのスペイン語を比べながら主にスペインのスペイン語を勉強することです。</p>		[講義計画] <p>授業は三つの部分に分けられる：1) 文法の説明；2) 文法のテーマを応用しながら日常会話の表現を覚えること；3) 会話の学習。 学生は勉強した表現を使いながら中間たちと話す。</p>		
[成績評価の方法] <p>評価は春学期と秋学期のそれぞれの試験により、または学生の授業中の参加により行われます。</p>		[参考文献]		
[教科書] <i>En español, por favor!</i> Yoshiko Yamamichi (山道) Jesús M. Martínez Astivia (マルティネス) DUNAKUSHIA				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 Ia	01	通 期	2単位	畷 絵里
[講義概要・学習目標] <p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。</p>		[講義計画] <春学期> 1. イタリア語の発音 2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念 3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現 <秋学期> 1. 補助動詞・不規則動詞・代名詞 2. 過去の表現 (近過去・半過去) 3. 再帰動詞 4. さまざまな日常会話表現 5. 初歩的な読解 (2)		
[成績評価の方法] <p>平常点 (授業における積極性、反応度、理解度) を基本とする。年に数回の筆記試験を授業中に行う。これらの材料から受講生各個人の能力を総合的に判断して評価を決定する。</p>		[参考文献] 白崎容子著『イタリア語速習15日』(創拓社)		
[教科書] 武田 好・横山 千里著『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』。 また、次の辞書を必ず授業に持ってくること。 小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円) (または、小学館『伊和中辞典』(定価6600円)でもよい。)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ia	02	通 期	2単位	和 栗 珠 里
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語の発音 2. 名詞・形容詞と性数の概念 3. 動詞・代名詞を用いた表現 4. 初歩的な読解(1) <p><秋学期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補助動詞と不定法 2. 過去の表現(近過去・半過去) 3. 再帰動詞 4. さまざまな日常会話表現 5. 初歩的な読解(2) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。年に数回の筆記試験を授業中に行う。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>白崎容子著『イタリア語速習15日』(創拓社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講師作成のテキスト(授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)。また、次の辞書を必ず授業に持ってくること。 小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円)</p> <p>(または、小学館『伊和中辞典』(定価6600円)でもよい。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ib	01	通 期	2単位	啜 絵 里
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語の発音 2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念 3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現 <p><秋学期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補助動詞・不規則動詞・代名詞 2. 過去の表現(近過去・半過去) 3. 再帰動詞 4. さまざまな日常会話表現 5. 初歩的な読解(2) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。年に数回の筆記試験を授業中に行う。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>白崎容子著『イタリア語速習15日』(創拓社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武田 好・横山 千里著『Andiamo in Italia!(アンディアーモ・イン・イタリア)』。 また、次の辞書を必ず授業に持ってくること。 小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円)</p> <p>(または、小学館『伊和中辞典』(定価6600円)でもよい。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ib	02	通 期	2単位	和栗 珠里
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語の発音 2. 名詞・形容詞と性数の概念 3. 動詞・代名詞を用いた表現 4. 初歩的な読解(1) <p><秋学期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補助動詞と不定法 2. 過去の表現(近過去・半過去) 3. 再帰動詞 4. さまざまな日常会話表現 5. 初歩的な読解(2) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。年に数回の筆記試験を授業中に行う。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>白崎容子著『イタリア語速習15日』(創拓社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講師作成のテキスト(授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)。また、次の辞書を必ず授業に持ってくること。 小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円) (または、小学館『伊和中辞典』(定価6600円)でもよい。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I a		通 期	2単位	国 松 夏 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？ おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音(やはり独特の音がいろいろあります)を練習して覚えることから始めます。そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書は全部で20課あります。冒頭の「文字と発音」を1課分とする21課です。単純に計算すると、1回の講義につき、1課仕上げると、春学期と秋学期で案に1冊修了することになるはずですが、しかし、なかなか計算通りいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、重要なところはじっくりと、とばせるところはとばしていきます。一つだけ、予め注意しておきたいのは、教科書には書き込みをしないこと。A5判で余白の多くはない教科書なのですが、つい「読みカナ」をふったり(8課まではついていますが)、練習問題の解答を書き込んだりしたくなるのですが、それはノートにすること。教科書をきれいなままにしておき、常に「練習」できるようにしておくことも、意外と語学上達の早道なのです。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、春学期末と秋学期末の試験で総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桑野 隆 著 『CDエクスペレス ロシア語』 白水社刊</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ロシア語はロシア連邦に住む一億五千万人の言葉です。またCISの国々でもお互いのコミュニケーションの手段として使用されています。大阪から一番近いロシアの極東の町ウラジオストクは飛行機で約2時間のところにあります。この近くで遠い隣国を理解する第一歩としてロシア語の勉強を始めましょう。</p> <p>チャレンジ精神のある学生の参加を期待します。</p> <p>ロシア語はやりがいと味わいのある言語です。みなさんが知っているラテン文字とは違ったロシア文字の形を楽しみながら、発音を覚え、次第にロシア語文法の奥深く入っていきましょう。積極的に授業に参加して、五感をフルに使いながら、根気強く授業についてきてください。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>最初に、ロシア文字とその読み方を学びます。</p> <p>教科書は10課から成ります。前期で5課、後期で残り5課の予定です。</p> <p>授業時間数に余裕がある場合は読み物プリントを用意します。</p> <p>教科書に書かれているのは初級文法の中でもっとも基本的な事柄です。予習復習をしっかりとしながらすべて覚えるつもりで勉強してください。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（出席回数、小テスト）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>露和辞典必携</p>		
<p>[教科書]</p> <p>諫早勇一、服部文昭、大平陽一他著 「セメスターのロシア語」（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 1	通 期	2 単位	林 宏 作
中国語 I b	0 1	通 期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本句型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> ①現代中国語概説 ②漢語ローマ字 ③拼音と四聲 ④教科書第1課から第10課までの講読</p> <p><後期> 教科書第11課から第20課までの講読</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席率と前・後期の試験による。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>輿水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 Ia	02	通 期	2単位	汪 晓 京 キョウキョウ
中国語 Ia	03	通 期	2単位	
中国語 Ib	02	通 期	2単位	
中国語 Ib	03	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。拼音（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。</p> <p>使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。しかもアニメ化したビデオだ。また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介し、日本と中国の文化の違いが分かる。</p>		<p><前期> 導入 発音段階 ①発音（ローマ字による発音表記） ② 四声（中国語のイントネーション） ③ 総合練習 本文の勉強 第1課～第6課 2コマのペースで行う （文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）</p> <p><後期> 本文 第7課～第16課 前期と同じ</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
定期試験、平常点、出席などによる総合評価。		「デイリーコンサイス中日辞典」 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘【共編】 （三省堂 1998）		
[教科書]				
「アニメ中国語 恋する莎莎」 ^{シャシャ} （CD付き） （朝日出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 Ia	04	通 期	2単位	ジヨ コク キョク 徐 国 玉
中国語 Ib	04	通 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>この授業では中国語の基礎的な会話の習得を目標としている。目標を達するためにさまざまな手段で練習を行う。また中国語の文化をより身近に感じるように、中国の文化を紹介するビデオや中国の映画をみる。</p>		<p>【前期】 第1課～第10課</p> <p>【後期】 第11課～第22課</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価する。		『中日辞典』（小学館）		
[教科書]				
『基礎レッスン中国語』（徐国玉、山田忠司著 同学社出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I a		通 期	2 単位	ユン 尹 ヨンファ 英 和
【講義概要・学習目標】 この講義では、大韓民国で使われる朝鮮語(以下韓国語)を中心に授業を進めます。 文法(とくに語順)において酷似の日本語と韓国語も、発音においてはその違いが目立ちます。韓国語の発音を日本語の発音と比較しながら、繰り返し発音の練習をします。それとともに、韓国語の文字(ハングル)も学習します。また、日常生活でよく出会う挨拶表現など、実際の会話で意思疎通に役立つ表現を中心に勉強していきます。	【講義計画】 前期：第1課～第10課 文字と発音及び簡単な挨拶を勉強します 後期：第11課～第18課 数字を自由に表現します。簡単な会話の表現を勉強します。			
【成績評価の方法】 授業への積極的参加及び2回の試験により評価します。 出席：20% 課題提出：10% 口頭テスト：35%(第14課終了後) 筆記テスト：35%(後期)	【参考文献】 金東漢・張銀英(1999) 『改訂版 韓国語レッスン 初級1』			
【教科書】 長谷川由起子『コミュニケーション韓国語 (会話編1)』 (白帝社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I b		通 期	2 単位	青 野 正 明
【講義概要・学習目標】 この授業は朝鮮語の入門である。文字・発音や基礎的な文法を学び、簡単な文章の読解へと進みたい。 「朝鮮語 I b」では、文法と簡単な読み書きに重点を置いて、現代の韓国で使われている言葉を中心に学習する。北朝鮮で使われている言葉で韓国と異なるものについても、適宜紹介していく予定である。 隣国の言葉を全く知らないということは、よくよく考えてみれば奇妙なことではないか。今、私たちが朝鮮語を学ぶことは、自分たちの生き方としても非常に意義のあることだといえる。1年間を終えた段階では、基礎的な会話ができ、また簡単な文章も読めるだろう。	【講義計画】 春学期：第1～10課 秋学期：第11～20課			
【成績評価の方法】 出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。	【参考文献】 辞書は授業で紹介する。			
【教科書】 長谷川由起子『コミュニケーション韓国語 文章編1』 白帝社、2004年2月				